

2023

OSAKA SANGYO UNIVERSITY

HAND
BOOK

経営学部

経営学科

学籍番号

名前

このハンドブックは、修学に関する諸規程を簡潔にまとめたマニュアルです。学則・修学規程等の基幹規程は、教務課ホームページ(<https://www.osaka-sandai.ac.jp/life/ins/>)で閲覧することができます。

なお、この冊子は卒業するまで利用することになりますので、大切に扱ってください。

CONTENTS

Chapter 01

教務事項についての注意等…………… 3

Chapter 02 23B 入学生

カリキュラム、履修についての注意等…………… 35

Chapter 03 21B 編入生

カリキュラム、履修についての注意等…………… 57

【Web版冊子】

学生便覧

本学の規程を記したものです。

- ①大阪産業大学学則
- ②大阪産業大学学部通則
- ③大阪産業大学学位規程
- ④大阪産業大学各学部修学規程

Webシラバス
(授業計画)

講義(授業)の計画や、内容の概要を記したものです。

※閲覧方法

大阪産業大学トップページ⇒在学生の方⇒教務課

Chapter 01

大学における入学から卒業まで	3
教務課案内	4
各種 届出・願出	5
学生証と学籍番号	6
通学・学割	8
各種証明書	9
ポータルシステム (Portal-OSU)	10
産大モバイル	11
情報科学センター	12
保護者ポータル	12
学期と授業時間	13
履修申請	13
単位を修得するための学修時間	16
授業 (休講・補講・欠席 等)	17
身体科学科目について	19
定期試験	20
追試験	22
成績	23
GPA制度と修学指導・退学勧告	25
成績表の見方	26
授業料 (等) の納入について	28
学籍異動 (休学・退学・除籍 等)	29
転科・学部変更について	31

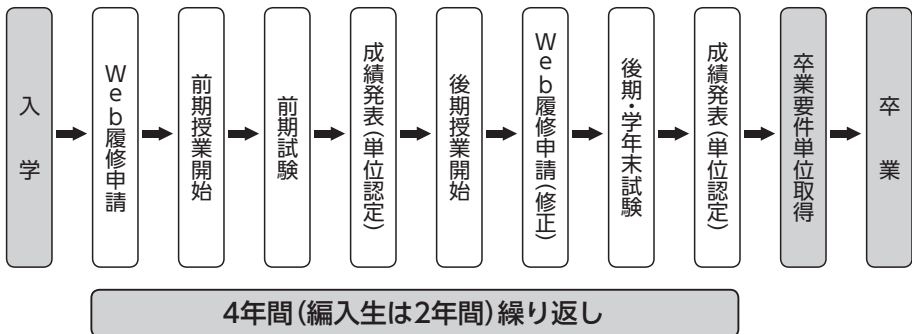
大学における入学から卒業まで

●一年間の流れ(学年暦概略)

※詳細月日は「学年暦」または「学生ポータルシステム」でご確認ください。

4月上旬	新入生・新編入生Web履修申請 前期授業開始
4月下旬	履修申請修正期間
5月中旬	履修登録確認表発行
7月下旬	前期授業終了 前期試験実施(～8月上旬) 追試験受付(～8月上旬)
8月上旬	夏期休業開始(～9月中旬)
8月下旬	追試験実施(申込み者で可否判定が可の者)
9月上旬	9月期卒業予定者成績発表
9月中旬	在学生前期成績発表
9月下旬	後期授業開始 在学生後期履修申請修正期間 9月期学位授与式(9月期卒業式)
10月中旬	履修登録確認表発行
12月下旬	年内授業最終、冬期休業開始(～翌年1月上旬)
1月上旬	後期授業再開
1月下旬	後期授業終了 後期・学年末試験実施(～2月上旬) 追試験受付(～2月上旬)
2月中旬	追試験実施(申込み者で可否判定が可の者)
2月下旬	卒業予定者成績発表(第1次)
3月上旬	卒業予定者成績発表(第2次)
3月中旬	学位授与式(卒業式) 在学生後期・学年末成績発表
3月下旬	新年度用在学生時間割等配布、ガイダンス、Web履修申請

●入学から卒業までの流れ



このハンドブックは、卒業するまで大切にご利用下さい。
入学年度のための配付となります。

教務課案内

履修、時間割、授業などについての質問、相談を受け付けています。

場 所	本館(11号館) 1 階(中央キャンパス)
受付時間	平 日 9:00～17:00 土曜日 9:00～12:30 ※夏期休暇中は10:00～16:00(土曜日はお休みです) ※日曜・祝日(授業実施日を除く)、夏期の一斉休業日、および冬期はお休みです。
連絡先	大阪産業大学 教務部 教務課 所在地 〒574-8530 大阪府大東市中垣内3-1-1 電 話 072-875-3001(代表) E-mail kyoumu-ml@cnt.osaka-sandai.ac.jp
業務内容	各 種 申 込 ・ 届 出 休学、退学、再入学、転科・学部変更試験 学籍に関する届け出 履歴変更に関する届け出(住所、氏名、連絡先の変更等) 授 業 料 授業料(延納、猶予) 履修・時間割・授業 履修申請、授業、授業の欠席、休講、補講、教室変更、シラバス 試 験 ・ 成 績 定期試験の実施、追試験の実施、成績発表 各 種 証 明 書 発 行 成績、卒業見込、在学証明書 等

各種 届出・願出

■学籍に関すること

種別	備 考	窓 口	詳細ページ
学生証再発行	窓口にて随時発行します。	教務課	6-7
住所異動届 ※	ポータルシステムで変更できます。		
氏名等変更届 ※	住民票または戸籍謄本が必要です。		
休学願 ※	詳細については窓口へ問い合わせてください。		29-31
退学願 ※			
復学願			
再入学願			

※奨学生の方は、学生生活課にも必ず連絡をしてください。

■通学・学割に関すること

種別	備 考	窓 口	詳細ページ
実習用通学証明書	実習、卒業研究等で学外に通学する場合に使用します。(担当教員の申請用依頼文書が必要)	教務課	—
学校学生生徒旅客運賃割引証(学割証)	パピルスメイト(証明書自動発行機)にて発行しています。		8

■授業料に関すること

種別	備 考	窓 口	詳細ページ
授業料(等)延納願	詳細については窓口へ問い合わせてください。	教務課	28-29
授業料(等)納入猶予願			
除籍取消願			
授業料(等)納入および除籍猶予願			

■授業に関すること

種別	備 考	窓 口	詳細ページ
欠席届(学校認定活動用)	教職関連の欠席	教職教育センター	—
	課外活動に関する欠席	学生生活課	
欠席届(一般用)	傷病、親族の冠婚葬祭などによる欠席	教務課	17-18

注) 欠席届の提出により成績や出欠への配慮がされるかどうかは各科目担当教員の判断となります。

※公共交通機関遅延・運休に伴う遅刻・欠席については、当該交通機関発行の「遅延証明書(web画面の提示を含む)」を遅刻・欠席した科目の担当教員に提示してください。

■試験に関すること

種別	備 考	窓 口	詳細ページ
試験用臨時学生証	試験期間中のみ発行できます。	教務課	21
追試験受験願	受付期間内に手続きしてください。		22

■単位認定に関すること

種別	備 考	窓 口	詳細ページ
既修得単位の認定	受付期間内に手続きしてください。	教務課	18

学生証と学籍番号

学生証

学生証は、本学の学生であることを証明するものです。他人に貸与あるいは譲渡することはできません。
本学で行う定期試験の際には、受験票となりますので、忘れた場合は受験できません。また、教職員から提示を求められた時は、いつでも提示できるように常に携帯し、紛失・破損等のないよう取扱いには十分注意してください。
学生証の記載事項に変更があった場合は、直ちに教務課に届け出て訂正を受けなければなりません。

(学生証・表面)



学籍番号

学籍番号は入学時に決定します。学籍番号は、入学した学科(学部)に在籍する限り変わることはありません。
在学(在籍)期間はもとより、卒業後もそのまま残る固有の番号です。
学内における事務処理は、すべてこの学籍番号によって行われますので、正確に覚えましょう。

学籍番号は6桁の数字とアルファベットで表示します。

(例) $\frac{23}{\text{入学年度}}$ $\frac{B}{\text{学科コード}}$ $\frac{001}{\text{個人番号}}$

アルファベットは、学部・学科を表し、コードは下記のとおりです。

学 部	学 科	学科コード
国際学部	国際学科	P
スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	T
経営学部	経営学科	B
	商学科	C
経済学部	学科配属をしない1・2年次 (3年次より下記の学科配属を行います)	E
	経済学科・国際経済学科	E
デザイン工学部	情報システム学科	H
	建築・環境デザイン学科	M
	環境理工学科	V
工学部	機械工学科	F
	交通機械工学科	G
	都市創造工学科	K
	電気電子情報工学科(2023～) (編入生は「電子情報通信工学科」)	L

学生証が必要なとき	○試験を受けるとき ○授業で出席確認を行うとき ○履修相談をするとき ○図書館を利用するとき ○通学定期を購入するとき ○各種証明書の発行申請(パピルスメイト(証明書自動発行機))をするとき																																
有効期限	・入学後4年間(編入生は2年間)です。 ・5回生以上に在籍する学生は、毎年度末に学生証の更新が必要になります。 2月中旬以降に教務課で更新の申し込みをしてください。3月末に旧学生証と引き換えます。なお、旧学生証を紛失している場合は有料(1,000円が必要)です。																																
学生証の再発行 (紛失・破損)	学生証を紛失・破損した場合は、教務課に届け出て再発行手続きを行ってください。 再発行は有料(1,000円が必要)です。 学生証を紛失した場合は、まず学生生活課で落とし物を確認し、見つからなければ、直ちに警察に届け出てください。																																
学生証の返還	以下の場合は、学生証を速やかに教務課へ返還してください。 1. 卒業、退学、除籍により学籍を離れたとき。 2. 学生証の再交付を受けた後に旧学生証が見つかったとき。																																
氏名の変更	本人および保護者の氏名を変更の場合は、速やかに「氏名変更届」と住民票または戸籍謄本を併せて教務課まで届け出てください。																																
住所等の変更	本人および保護者(保証人等)の携帯電話番号、自宅電話番号、住所はポータルシステムから変更できます。																																
学生証裏シールの更新	当該年度の在籍を証明する大切な証明書です。裏シールは通学定期購入の有無にかかわらず、全員年度ごとに更新が必要です。 当該年度のシールを貼付していない学生証では、通学定期も購入できません。 新年度の裏シールは、毎年3月下旬から教務課で交付しますので、忘れずに更新してください。 (学生証・裏面) <table><tr><td>2023年度</td><td>学籍番号</td><td colspan="2">氏名</td></tr><tr><td>在籍確認票</td><td>現住所</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>通学区画</td><td>～</td><td>間</td><td>～</td></tr><tr><td>通学定期乗車券控</td><td>発行年月日</td><td>通用期間</td><td>発行駅</td></tr><tr><td></td><td>年月</td><td>年月</td><td>駅</td></tr><tr><td></td><td>年月</td><td>年月</td><td>駅</td></tr><tr><td></td><td>年月</td><td>年月</td><td>駅</td></tr><tr><td></td><td>年月</td><td>年月</td><td>駅</td></tr></table> 大阪産業大学	2023年度	学籍番号	氏名		在籍確認票	現住所			通学区画	～	間	～	通学定期乗車券控	発行年月日	通用期間	発行駅		年月	年月	駅		年月	年月	駅		年月	年月	駅		年月	年月	駅
2023年度	学籍番号	氏名																															
在籍確認票	現住所																																
通学区画	～	間	～																														
通学定期乗車券控	発行年月日	通用期間	発行駅																														
	年月	年月	駅																														
	年月	年月	駅																														
	年月	年月	駅																														
	年月	年月	駅																														

通学・学割

通学定期・学割証は正しく使いましょう。

※次の行為は、不正乗車として摘発されます。

- ・自分の定期券・学割証等を友人等に貸したとき
- ・有効期限切れの定期券・学割証を使用したとき
- ・記入事項（日付など）を書きかえた時
- ・自宅および大学の最寄駅以外の区間で購入し使用したとき

※不正乗車を行なった場合、当該交通機関より多額の運賃が請求されます。また、大学のすべての学生が通学定期券を購入できなくなる恐れがあります。購入可能な区間等に疑問がある場合は、必ずご自身で、当該交通機関の定期券発売窓口へ確認してください。

通学定期	通学定期購入の際は、学生証の裏面にある通学区間（路線別）を記入し、教務課で承認印を受けてから、通学証明書として使用することができます。各交通機関の購入窓口に学生証を提示して購入してください。（交通機関によっては、別途通学証明書が必要となる場合があります。各交通機関に確認し、必要な場合は、教務課で承認印の押印を受けてください。） 誤った申請内容で不正乗車を行なった場合、当該交通機関より多額の運賃が請求されます。また、大学のすべての学生が通学定期券を購入できなくなる恐れがあります。購入可能な区間等に疑問がある場合は、必ずご自身で、当該交通機関の定期券発売窓口へ確認してください。
通学区間	通学区間の証明は、現住所（学生証に記載されている住所）の最寄駅から、大学の最寄駅までの最短距離に限りです。 ※購入可能な区間等に疑問がある場合は、必ずご自身で、当該交通機関の定期券発売窓口へ確認してください。 なお、通学以外の目的（アルバイト等）のために通学証明することはできません。また、通学区間の変更や通学定期乗車券控の記入欄がなくなった場合は、教務課で裏面シールの追加発行と承認印を受けてください。
通学区間の 変更	住所変更等で通学区間および路線に変更があった場合は、教務課に申し出て、承認印を受けてください。 ※購入可能な区間等に疑問がある場合は、必ずご自身で、当該交通機関の定期券発売窓口へ確認してください。
学校学生生徒 旅客運賃 割引証 ・ 使用上の注意	学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）とは、片道乗車区間の距離が営業キロで100kmを超える区間を乗車する際には片道乗車券が、600kmを超える場合には往復割引乗車券が2割引となるものです。（JRのみ） ・学割証の有効期間は発行の日から3ヵ月です。 ・パピルスメイト（証明書自動発行機）で即日交付することができます。 学割証を不正に使用した場合には、使用者は3倍の運賃を追徴され、以後の発行を停止されることがあります。また、本学の学割制度そのものを失い、他の学生に迷惑をかけることにもなりかねませんので、十分に注意してください。

各種証明書

証明書は、パピルスメイト(証明書自動発行機)で発行するものと、教務課窓口で発行するものがあります。

パピルスメイト(証明書自動発行機)から発行可能な証明書等

成績証明書	和文	300円	成績表	注)年間2通まで	無料
	英文	1,000円			
卒業見込証明書 ※(1)		200円	履修登録確認表	注)年間2通まで	無料
成績・卒業見込証明書		500円	学校学生生徒旅客運賃割引証(学割証) 注)P8参照		無料
在学証明書	和文	200円	健康診断書 (当該年度、健康診断受診者に限る)		200円
	英文	1,000円			
試験用臨時学生証		500円	初期パスワード通知書		200円

※(1)卒業見込証明書:当該年度に卒業が可能であることを証明するもので、就職活動等に必要です。
[注意事項]

1. 試験用臨時学生証は、使用后、教務課まで必ず返却してください。有効期限は発行当日限りです。

2. 間違いや余分に発行・購入した証明書等の返金は一切できません。

3. パピルスメイトに関する質問等は教務課または近くの窓口までお申し出ください。

4. パピルスメイトのパスワードは、大学へ届けている保証人(保護者等)の自宅電話番号下4桁です。
次の条件に該当する場合のみ、4月1日から発行できます。

①3月末日において、3年以上在学(編入生は1年以上在学)し、既に卒業要件単位数を充足している。

②3月末日において、3年以上在学(編入生は1年以上在学)し、新年度に向けて、卒業要件単位数を充足できる履修申請(クラス登録含む)が問題なく完了している。

注)履修申請修正期間中において、卒業要件単位数を充足できる履修申請修正を行った場合、翌日から発行が可能になります。

【パピルスメイト設置場所および稼働時間】

中央キャンパス: 本館(11号館)1階ホール	月曜日～金曜日	9:00～17:00
	土曜日	9:00～12:30
東キャンパス: クリスタルテラス1階	月曜日～金曜日	9:00～17:00
	土曜日	9:00～12:30
梅田サテライトキャンパス (大阪駅前第3ビル19階)	月曜日～金曜日	9:00～19:00
	土曜日	9:00～17:00

注)夏期・冬期休暇中・春期は稼働時間を変更します。(掲示、ポータルシステム等でお知らせします。)

パピルスメイト
(証明書自動発行機)



教務課窓口で発行する証明書等

成績証明書(英文)	1,000円	在籍(期間)証明書※1	200円
		卒業証明書	200円
卒業証明書(英文)	1,000円	調査書(大学院受験用)	500円
在学(籍・籍期間)証明書(英文)	1,000円	調査書(学内推薦)	無料
		通学証明書(学生証裏シール)	無料
単位修得見込証明書	300円		

※1休学中の証明は、在籍証明書となります。

※2卒業生は、教務課窓口または郵送で証明書の申込を受け付けます。詳細は本学公式Webページをご確認ください。

ポータルシステム(Portal-OSU)

修学に関する情報をまとめ、学生生活を支援するための総合案内システムです。

履修申請、シラバス照会、個人に応じたお知らせなど、様々な機能を使用することができます。

【重要】「Web履修申請ガイドブック」を入手してください。(配付：教務課)

〔履修申請…受講したい講義(授業)科目を学年(学期)の初めに申請すること〕

主 な 機 能

- ①お知らせ 教員および教務課、学生生活課などからの各種お知らせ
- ②時間割 履修している講義(授業)に関する情報
(休講、補講、教室・教員変更、講義連絡など)
- ③教務システム Webシラバス、Web履修申請などの入り口
(クラス登録、履修申請、履修登録確認表、成績表ダウンロードなど)
- ④定期試験時間割 実施日の1週間前から掲載



⑤WebClass(教育支援システム)



履修している講義(授業)教員との連絡、教材のダウンロード、課題の提出などの機能ががあります。

- ・ポータルシステム、大学Webサイト(情報科学センター)からもログイン可能
- (*)ログイン方法は、下記ポータルシステムと共通

⑥メール通知設定



スマートフォンなどに、ポータルシステム上の新着通知を、配信設定する機能(本学発行のGmailアドレスが最初から登録済み)

メールアドレスは3つまで登録することが可能

- ・配信先状況が「本登録」になれば、受信することができます。
- ・ドメイン指定解除してください。【osaka-sandai.ac.jp】を設定してください。

ロ グ イ ン

大阪産業大学Webサイト (<https://www.osaka-sandai.ac.jp>)



(*) ログイン方法

【ユーザID】 s + 学籍番号(半角小文字)(例：99A999→ s99a999)

【パスワード】 パスワード通知書(ハガキ)に記載



産大モバイル

学生生活を支援するためのスマートフォンアプリです。
保護者の方は、ゲストモードでご利用いただけます。

主な機能

- | | | |
|----------------|---|---|
| ①時間割 | 履修している講義(授業)に関する情報
(休講、補講、教室・教員変更、講義連絡など)
时限をタップして、メモを入力することが可能 |  |
| ②出席システム | 出席情報の送信 (P16を参照) | |
| ③OSU MAP | キャンパスマップの検索
(トイレ、食堂、売店、コピー機、ATMなど) | |
| ④時刻表 | シャトルバス、近鉄バス(新石切駅前)の時刻表 | |
| ⑤PC演習室
利用状況 | 講義(授業)、自由利用(開放)のPC演習室(13部屋：約900台)に関する情報
0701演習室は、いつでも自由利用(開放)
(PC…パソコン [Personal Computer]) | |

ログイン

大阪産業大学Webサイト (<https://www.osaka-sandai.ac.jp>)



Google Play, App Storeからダウンロード可能



(*)ログイン方法は、左記ポータルシステムと共通
注意)マニュアルをご確認の上、ご利用ください。



Wi-Fi(無線LAN)

大学内ほとんどのエリアで、無線LANを利用することができます。

接続方法：右記QRコードを参照

(*)ログイン方法は、左記ポータルシステムと共通

[LEONETWiFi-1x]：設定が完了している場合、次回以降は自動的に無線LANに接続されます。



情報科学センター案内



情報処理教育を推進し、教育研究一般をICTで支援する部署です。
ICT：情報通信技術 (Information and Communication Technology)
場所：本館 (11号館) 5階 (中央キャンパス)

Microsoft Office 製品無償利用

在籍中は、Office365を経由してMicrosoft Officeを無償で利用することができます。
(Windows/Mac PC・タブレット・スマートフォン複数台に、インストール可能)



保護者ポータル

インターネットを通じて、在学生の保護者の方へ情報提供を行います。
主な機能は以下の通りです。

お知らせ、個人伝言

大阪産業大学および後援会から最新の話題や情報等を提供する掲示板です。

時間割

履修している時間割を閲覧することができます。

イベント出欠登録

後援会が実施する地区教育懇談会、定期総会などの申し込みをすることができます。

成績表ダウンロード

成績表をダウンロードすることができます。なお、成績登録期間中はダウンロードできません。
前期成績発表日から1月中旬まで、後期成績発表日から7月中旬までにダウンロードしてください。

メール通知設定

大阪産業大学および後援会からののお知らせやイベントの開催案内をメールで通知します。

①大学のホームページの後援会をクリック。

※初めて利用される方はこちらをクリックしてパスワード変更をお願いします。

②後援会のページから保護者ポータルサイトにログインします。

③保護者ポータルログインをクリック

5 メール通知設定
大阪産業大学及び後援会からのお知らせやイベントの開催案内などをメールでも通知します。

学期と授業時間

試験時間は授業時間と異なるので注意してください。(授業時間中に行われる試験は除く)

学期	前期と後期の2期に分かれています。	
	前期	後期
	4月1日～9月20日	9月21日～3月31日
	これに応じて前期開講科目、前期試験、後期開講科目、通年開講科目、後期(学年末)試験などがあります。	
授業時間	時限	時間
	1時限	9:00～10:30
	2時限	10:40～12:10
	3時限	12:50～14:20
	4時限	14:30～16:00
	5時限	16:10～17:40
	6時限	17:50～19:20
	※各時限は90分授業(=1コマ)	
	※授業は1時限～6時限、月～土曜日まであります。	

履修申請

当該年度に単位を修得しようとする授業科目を申し込むことです。

履修登録は各自の学修計画に基づき、Web履修申請システムにて4月(在学生は3月)に、当該年度に必要な科目を全て登録します。なお、前期は4月下旬、後期は9月下旬にそれぞれ修正期間を設けていますので、既決登録科目およびクラス登録科目を除く科目の修正が可能です。

所定の期間内に履修申請を行わなかったり、間違った履修申請を行うと、授業に出て試験を受けても、単位は修得できません。

履修申請は、パソコンを利用して行います。操作(申請)方法は『Web履修申請ガイドブック』に掲載されています。

申請システムを利用するためにはIDとパスワードが必要です。パソコン関係の授業で使用するIDとパスワードと同じです。また、パソコンを所有していない方のために申請期間中は、学内のパソコン演習室を開放します。

※詳細はポータルシステム  Web履修申請支援メニューより、『Web履修申請ガイドブック』をご覧ください。

※履修と修得について

「履修」とは、単位を修得するために、教育課程に定められた授業科目を登録し学ぶことです。

「修得」とは、授業科目を学んだ結果、合格の評価を受け単位認定されることです。

■履修申請手順

①必要な情報 (モノ)を そろえる

履修申請をする前に、下の1)～5)の資料をそろえてください。
新入生は4月上旬、在生は3月下旬です。

1)カリキュラム表 ハンドブック(この冊子に掲載されています)

2)講義時間割 (ポータルシステム OSUの履修支援メニュー Portal-OSU Web履修申請支援メニューに掲載されています)

3)Webシラバス

シラバスとは、講義(授業)の計画や、講義内容(概要)を記したものです。
どんな講義が開講されているか、講義(授業)の内容や成績評価基準等も掲載されているので次の検索方法で確認しましょう。

【Webシラバス(授業計画書)検索方法】



4)成績表

修得した科目や単位、卒業に必要な科目や単位を確認するために必要です。

5)「Web履修申請ガイドブック」

Web履修申請の申請スケジュール、操作マニュアル等が掲載されています。

②履修計画 を立てる

①でそろえた必要な情報を基に、『Web履修申請ガイドブック』巻末の「クラス登録応募下書き用紙」も確認し、履修計画を実際に、「履修申請下書き用紙」に記入していきます。

【履修計画における注意点】

- ①履修する科目を選ぶために、事前に「Webシラバス(授業計画書)」を読んでください。
- ②各時限帯に開講されている授業科目の中から、自分が学びたい科目を選び、各自で履修申請してください。学生一人一人の時間割の内容は、同じ学部学科であっても違ったものになります。
- ③卒業要件単位数を充足することに重点をおいて時間割を組んでください。
- ④学籍番号や学年により履修が制限されているもの、履修する講義が予め指定されているもの(既決履修講義)、抽選により履修者を決定するもの、プレイスメントテストの結果により履修指定がされているものなど、さまざまなタイプがあります。講義時間割の備考欄などに記載されている履修の条件をよく確認してください。
- ⑤既に単位認定を受けた科目を再度履修することはできません。
- ⑥各ガイダンスには必ず参加してください。

③履修申請 の手続き を行う

1) クラス登録科目応募

抽選により履修者を決定するタイプの科目は、履修申請に先立ち応募受付を行い、抽選処理を行います。抽選の結果当選した場合に限り履修できます。なお、当選した講義(クラス)は履修を取り消すことができません。詳細は『Web履修申請ガイドブック』巻末の「クラス登録応募下書き用紙」をご覧ください。

重要 クラス登録応募について

履修人数を制限している科目(講義時間割の科目名左側に「●」「○」「◎」印のある科目)の受講を希望する場合は、クラス登録期間に応募してください。

クラス登録応募は、Webで「受付→抽選、履修クラスの決定→結果発表」という手順で行います。ただし、科目によっては、応募者多数の場合、受講できない(抽選にはずれる)ことがあります。

詳細は『Web履修申請ガイドブック』の「クラス登録」を参照してください。

■クラス登録タイプについて

I	登録保証型 (講義時間割●印科目)	科目と曜日時限を指定して応募します。クラス(教員)は指定できません。応募すれば必ず当選します。
II	曜日時限指定抽選型 (講義時間割○印科目)	科目と曜日時限を指定して応募します。クラス(教員)は指定できません。希望の曜日時限すべてが定員を超えた場合は、はずれることがあります。(曜日時限に希望順位をつけられます。)
III	クラス指定抽選型 (講義時間割◎印科目)	科目と曜日時限、クラス(教員名)を指定して応募します。希望のクラスすべてが定員を超えた場合は、はずれることがあります。(クラスに希望順位をつけられます。)

抽選結果、当選クラス(教員名)につきましては、本申請までにWeb上で発表します。クラス登録科目につきましては、抽選・登録の結果、決定したクラスを原則取り消すことはできません。

2) 本申請

履修計画(下書きした時間割)に基づいて、Web履修申請システムで講義を申請してください。申請画面を開くと履修可能な講義が表示されています。(時間割は学生ごとに異なります。)事前にクラス登録の抽選により受講を許可された講義と既決履修講義が表示されています。これらの講義は、取り消すことができません。なお、期間内ならば何度でも申請内容を変更することができます。申請が完了したら、必ず申請内容を印刷して保管しておいてください。

3) 修正

申請した講義を修正(追加、削除)することができます。ただし、抽選により履修が決定した講義、既決履修講義は取り消しできません。修正が完了したら、必ず申請内容を印刷して保管しておいてください。

履修登録 確認表	Web履修申請期間終了後に、履修確定内容を確認するためのものです。 (5月中旬、10月中旬発行) 履修登録確認表にて、申請した科目と相違がないかを必ず確認してください。 記載のない科目を受講し試験を受けても単位は認定されません。 ≪「履修登録確認表」はポータルシステム  の教務システム(履修・シラバス)に アクセスし、入手・印刷してください。 またはパピルスメイトでも年2回無料で発行することができます。≫
教科書販売 について	前期・通年科目は毎年3月下旬から4月中旬にかけて、後期科目は9月中旬から10月上旬 にかけて教科書を販売します。 購入方法等の詳細は、別途配布・配信される「教科書販売のご案内」および、以下の本学公 式Webページを確認してください。 ※MyKiTS (Web申込み) から購入した教科書は必ず受取りをしてください。 トップ>キャンパスライフ>教務課>Web履修申請支援メニュー>教科書販売

単位を修得するための学修時間

大学における授業の学修量を「単位」と表し、履修登録した授業に出席し、試験(筆記、レポート、実技等)に合格することで単位が与えられます。これを積み重ね、必要な単位を満たすことで卒業ができます。単位の算定は、大学設置基準により、1単位の授業科目を45時間の学修(各自が行う事前・事後学修を含む)を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、各大学において定めるとされています。なお、本学では、1時限90分の授業時間を2時間とみなし、計算します。

大学の授業内容は、単に授業に出席しさえすれば授業内容がすべて理解できるようなものではありません。単位を修得するためには、授業だけでなく、各自で授業外に準備学修等(事前・事後学修)を行う必要があります。各授業科目の準備学修等(事前・事後学修)の具体的な内容とそれに必要な時間はシラバスに記載されています。主体的な学修の仕方を身に付け、学修に励んでください。

出席情報システム

本システムは、産大モバイル(スマートフォンアプリ)と教室内設置の超低照度稼働ビーコンとWi-Fi APビーコンにより出席情報を収集するシステムです。

学生は自身のスマートフォンで産大モバイル(スマートフォンアプリ)を起動し、授業開始時に科目が開講されている教室内に産大モバイル内の「出席システム」より、「出席情報の送信」を1回送信するだけで「出席」「遅刻」が自動判定されます。出席受付終了時間以降(授業開始後31分～授業終了時)の送信、もしくは「出席情報の送信」がない場合は、自動的に「欠席」扱いとなります。

自身の出席状況(当日)は、「出席情報の送信」10分後以降に「Portal-OSU」にログインし、本システムにアクセスするだけで確認できます。また、前日までの出席状況を翌日以降に「教務システム(履修・シラバス)」から科目ごとの出席状況、履修登録している全科目の出席状況を帳票(PDF)形式で確認・ダウンロードができます。

大学の授業は、「出席」して受講することで理解が深まり、授業が面白くなり、単位の修得、成績の評価に繋がります。一方で「欠席」が多くなると、授業が分からず、つまらなくなることで、更に「欠席」を繰り返し、成績不振で、留年になるなど、悪循環に繋がりがねません。

充実した大学生活を送るためにも、全ての授業には遅刻せず出席しましょう。

出席情報の送信・アクセス方法などの詳細説明は操作説明書(学生向け)を確認してください。

「ポータルシステム」→「履修申請支援メニュー」→「出席情報システム 操作説明書(学生向け)」
※本システムに関するお問い合わせは、教務課の出席情報システム担当者へお問い合わせください。

授業（休講・補講・欠席 等）

休講

◎担当教員の都合による休講

担当教員の都合により授業ができない場合は、ポータルシステム ＜＜＜＜＜ Portal-OSU ＞＞＞＞＞ で案内します。
体調不良等やむを得ない事情により授業開始直前の連絡となる場合もあります。

◎気象警報および交通機関遮断による休講

次の1)～4)のいずれかに当てはまる場合は休講となり、授業や試験は行われません。
警報が解除、あるいは交通機関が平常に回復した場合は、下記のとおり授業あるいは試験が実施されます。

- 1)大阪府下のいずれかの地域または兵庫県(阪神地区)に「暴風警報」、「暴風雪警報」、「特別警報(大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪)」が発令されたとき。
- 2)大東市に土砂災害警戒情報レベル4以上が発令されたとき。
- 3)JR西日本「学研都市線(片町線)」の京橋～松井山手間の一部または全部が遮断しているとき。
- 4)Osaka Metro「中央線」・近畿日本鉄道「けいはんな線」(本町～生駒間)及び近畿日本鉄道「奈良線」の2交通機関が同時に遮断しているとき。

※事故等による一時的な交通機関運休の場合は、原則通常通り実施します。

※1)、2)の警報が授業中に発令された場合、授業を中止して休講になることがあります。

解除時間	授業の取扱
午前6時30分までに解除された場合	通常通り
午前6時30分を過ぎても解除されない場合	1時限目から2時限目まで休講
午前10時までに解除された場合	3時限目から通常授業
午前10時を過ぎても解除されない場合	3時限目から5時限目まで休講
午後3時までに解除された場合	6時限目から通常授業
午後3時を過ぎても解除されない場合	全授業休講

◎自然休講

授業開始後30分経過して担当教員が来室しない時は「自然休講」になります。
自然休講も補講対象となります。

補講

休講した授業については、別途補講授業を行います。

補講日については、ポータルシステム ＜＜＜＜＜ Portal-OSU ＞＞＞＞＞ にてお知らせします。

レポート

授業担当教員から、レポートを提出するよう指示があった場合は、次の点に注意してください。

- ・学科、科目名、教員名、学籍番号、氏名を明記した表紙をつけてください。
- ・2枚以上の場合は、ホッチキス等で綴じてください。
- ・教員から指示があった場合はそれに従ってください。
- ・授業担当教員から「レポートBOXに投入」する旨の指示があった場合は、指定されたレポートBOXに入れてください。(BOXは14号館1階・3号館1階および各学部・学科事務室にあります。)
- ・提出後の訂正や追加は認められません。
- ・提出締切日を過ぎると一切受け付けることができません。
- ・定期試験の代わりにレポートを課す授業もあります。常に授業に出席して情報を得るようにしてください。

(表紙記入例)

学科名	○○○○
科目名	○○○○
担当教員	○○○○先生
レポート課題	○○○○
学籍番号	○○○○○○○
氏名	○○○○

講義時間割	講義時間割は毎年作成されます。 年度によりカリキュラム表と異なる学期(前期・後期)で開講される場合や、開講されない場合があります。 履修申請をする際には講義時間割表および時間割修正情報を確認するようにしてください。 ※講義時間割および時間割修正情報はWeb履修申請支援メニュー>講義時間割表および時間割修正情報、もしくはポータルシステム  >教室・教員変更照会よりご確認ください。
集中講義	各授業科目の講義は通常、前期・後期・通年の授業形態で行われます。しかし、授業科目担当者を学外から招く等の理由で、長期休暇期間等を利用して行う集中講義があります。日程についてはポータルシステムでお知らせします。
海外研修	言語文化科目分野の単位が修得できる海外研修科目があります。参加希望者は3月下旬に実施される語学研修ガイダンスに参加してください。なお、海外研修に参加する場合は、履修申請期間に必ず登録してください。詳しくは国際交流課にご相談ください。
既修得単位の認定	入学前の既修得単位の認定とは、本学に入学する前に他の大学・短期大学において修得した単位、あるいは高等専門学校・その他文部科学大臣が別に定める教育機関(専修学校等)での学修について、最大60単位まで本学で修得した単位として認める制度です。認定を希望する場合は、下記の内容で取り扱います。受付期間を過ぎてからの申請は認められませんので注意してください。 専門学校の場合は、修了時に「専門士」の資格を修得していることが条件です。 ①受付期間……2023年4月1日(土)～2023年4月8日(土) ②受付場所……教務課窓口 ③必要書類……1)当該学校が発行する成績証明書または単位修得証明書 (各科目の単位数および配当時間数が記載されていること) 2)当該学校の学生便覧、シラバス等(カリキュラムがわかるもの)
授業の欠席	<「欠席届(一般用)」の手続きの流れ> ①印鑑、公的な証明書(疾病に関する場合は診断書、親族の冠婚葬祭の場合は参列した証となるもの、葬儀の場合は会葬礼状など)を持って教務課にお越しください。 ②「欠席届(一般用)」を記入してください。 ③教務課受付後、欠席した科目の担当教員に、「欠席届(一般用)」を提示してください。 ④提示終了後に「欠席届(一般用)」を教務課に返却してください。 原則的に授業欠席の電話連絡は受け付けていません。 そのため、教務課から担当教員への欠席連絡の取り次ぎは行いません。 後日、教務課にお越しください。ただし、感染症のおそれ、事件・事故等があったときは、教務課または学生生活課まで電話連絡してください。 上記の記載内容以外の手続きについては、別途ポータルにて連絡します。 学校認定活動に伴う欠席届の手続きについては、申請窓口の指示に従ってください。
注意事項	①授業には必ず出席するよう心掛けてください。遅刻や早退もしないようにしてください。 ②授業中の私話は控えてください。授業の妨げにならないようにしてください。 ③授業中に教員の指示なくスマートフォン等の電子機器を使用(板書事項等の撮影を含む)しないでください。ただし、診断書等により特別に許可された学生を除きます。

身体科学科目について

受講時の注意

■出欠席を厳しくとります。身体科学科目は3回までの欠席は認めます。

原則4回以上欠席した場合は不合格となり、単位は認定されません。

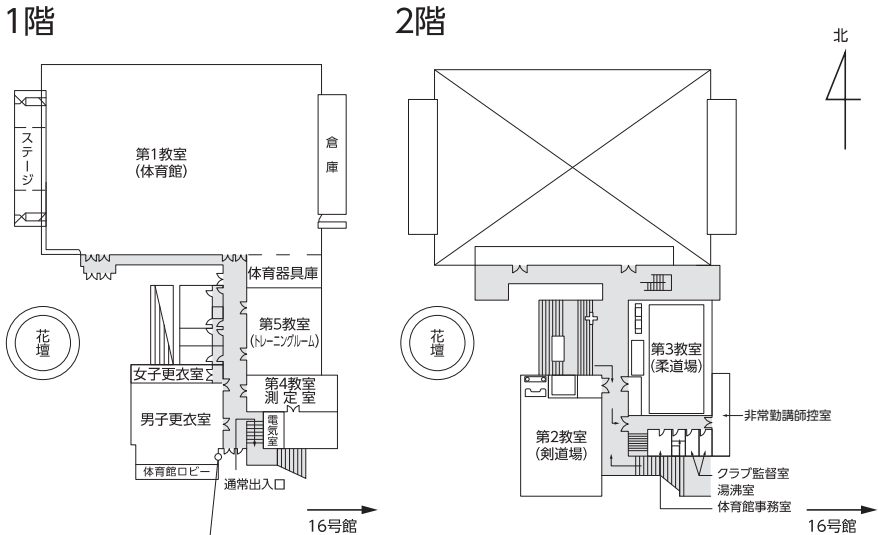
■「スポーツ科学実習」について

- ・服装は、運動服であれば高校で使用したもので差し支えありません。
- ・体育館内の種目を受講する学生は、体育館シューズを使用してください。
- ・テニスを受講する学生は、原則テニスシューズを使用してください。
- ・ロッカー使用の場合には、各自指定番号の鍵を授業時間ごとに借り出し、授業終了後必ず返却してください。

■受講に関する指示は、体育館入口の掲示板を見てください。

■「ボウリング」は学外施設にて実施します。(※ゲーム代等別途費用がかかります)

総合体育館見取図



体育館掲示板はここにあります。

(ポータルシステム Portal-OSU の教室番号に*と記載されている場合、実施場所はこの掲示板もしくは教員から指示されます。指示の無い場合は2階非常勤講師控室で確認してください。)

定期試験

授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するために試験が行われます。

授業(科目)によっては定期試験期間以外に試験を実施する場合があります。授業期間内に試験が行なわれたり、レポートを提出しなければならない授業、授業中に課題を与えられる場合もありますので、気をつけてください。日頃の出席状況、受講態度なども評価の基準になります。さらに、単位認定にあたり、出席を前提としている科目もありますので注意してください。

詳細は、Webシラバスにて確認してください。

定期試験を受けるためには

履修申請が必要です。「履修登録確認表」(P16参照)で登録が確認された授業科目以外の試験を受けることはできません。
また、授業料(等)を納入していなければなりません。

試験時間

■試験期間

前期試験 (7月下旬～8月上旬)	前期終了科目・通年科目(中間試験)
後期試験・学年末試験 (1月下旬～2月上旬)	後期終了科目・通年科目

※通年科目の前期試験は中間試験として行います。

■試験時間

1 時限	9:20～10:40
2 時限	11:00～12:20
3 時限	13:00～14:20
4 時限	14:40～16:00
5 時限	16:20～17:40
6 時限	18:00～19:20

※通常試験時間は80分ですが、科目によっては60分の場合もあります。

試験時間割照会手順

- ① **Portal-OSU** (学生ポータルシステム) にログインし、左メニュー「定期試験時間割照会」を選択
- ② 「定期試験時間割情報」タブを選択
- ③ 履修申請科目のうち定期試験が実施される科目の一覧が表示されます

授業科目詳細 定期試験時間割照会

※定期試験時間割の一覧です。(科目外試験、レポート課題等は、掲載対象外です。)
定期試験時間割の約一週間前より掲載予定です。

機能アイコン をクリックすると、詳細画面が表示されます。

1/3ページ	戻る	ページ	1	GO	表示件数	50	GO
検索	科目名称	代表教員	学期	試験実施日付	試験実施時間	試験実施教室	備考
1	生活文化論		水曜1時限	2020年01月22日	1時限	5101	
2	地方実証論		水曜2時限	2020年01月22日	2時限	9401	
3	国際人権論		水曜3時限	2020年01月22日	3時限	5401	5401:学修番号の末尾が偶数の学生(194...
4	東アジア経済論		水曜4時限	2020年01月22日	4時限	5212	5212:学修番号の末尾が偶数の学生(145...
5	財政学Ⅲ		水曜5時限	2020年01月22日	5時限	9401	

※詳細は「Web履修申請ガイドブック」の定期試験時間割照会ページを確認してください

定期試験に関する注意事項

- 授業時間割と異なる曜日・時限で試験を実施する場合があります。
- 他曜日・他時限のクラスと合同で試験を実施する場合があります。
- 受験者数の関係で、教室を分けて試験を実施する場合があります。
- 試験時間割発表後にも実施日・教室等が変更される可能性があります。
- 旧カリキュラム適用の学生で科目の読み替えのある学生は、Webシラバス（授業計画書）参照の上、試験科目・試験日時を確認してください。
- 自由科目や乗り入れ等で他学部他学科の科目を履修している学生は、その科目が本来開講されている学部・学科の試験時間割を確認の上、受験してください。
 - ①試験場では、学生証を通路側の机の上に置いてください（学生証のない者は受験できません）。
 - ②学生証を忘れた時は、本館1階教務課前のパピルスメイトにて「試験用臨時学生証」を発行後、試験会場に入室してください。
- 「試験用臨時学生証」は当日のみ有効とし、当日の試験終了後直ちに教務課に返却してください。
- 「試験用臨時学生証」の発行手数料は500円です。
- 試験開始後30分以上遅刻した者は受験できません。
- 試験中に不正行為を行った者には退場を命じ、以下の通り処分します。
 - ◎注意義務違反を怠った者…当該科目の試験を無効とします。（監督者の指示に従わない者、受験態度が悪い者など。）
 - ◎不正行為を行った者……当該試験期間中の試験をすべて無効とします。

修学規程	単位認定に係わる試験（以下「試験」という。）を受験しようとする者は、試験場において、次の各号に定める事項（以下「注意義務」という。）を守らなければならない。 (1) 試験場においては、監督者の指示に従わなければならない。 (2) 試験開始後30分以上遅刻した者は試験場に入ることができない。 (3) 受験のさいは、学生証を机の上に置かなければならない。学生証を所持しない者は受験することができない。 (4) 答案用紙には、学籍番号および氏名をペンまたはボールペンで明記し、監督者に学生証との照合を受けなければならない。 (5) 特に許可されたものを除き、すべて携帯品は、監督者が指定する場所に置かなければならない。 (6) 配布を受けた答案用紙およびその他の用紙類はすべて、監督者が指定する場所に提出し、試験場外に持ち出してはならない。
------	---

修学規程	1. 試験にさいして、次の各号の何れかの行為を行った者は、不正行為者とみなし、学生証および答案を取り上げて退場を命じる。 (1) 前条の注意義務に抵触する行為 (2) 許可されたもの以外を見ること (3) 他人の不正行為を助けること (4) 不正行為を目的とするものを保持すること (5) 不正行為に係わる物的証拠を故意に隠蔽すること (6) その他不正行為とみなされること 2. 不正行為を行った者にたいしては、次の各号に従って処分を行う。 (1) 前項1号の不正行為を行った者は、当該科目の試験を無効とする。 (2) 前項2号から6号の不正行為を行った者は、当該試験期間中の試験を無効とする。 (3) 不正行為を繰り返すなど特に悪質な者にたいしては、学則第48条に基づいて懲戒処分とする。
------	---

追試験

追試験は、病気等で定期試験を受けることができなかった者が、以下のイ)～ホ)に該当する場合に申し込むことができます。通年科目の中間試験に追試験はありません。

追試験の成績は90点満点です。試験時間、試験場での注意、不正行為者の処分等については、定期試験と同様に扱われます。

受験該当者

- イ) 傷病等による公的な診断書^{*1}がある者。
※ 1 受診日以外に欠席を要する場合は、その欠席期間も安静を要することが判らなければ、原則として追試験の受験は認められません。
 - ロ) 採否に関わる就職活動の証明^{*2}がある者。
※ 2 以下の手順に従ってください。
 - ①「就職活動証明書」を事前にキャリアセンターで受け取り、必要事項を記入の上、キャリアセンターで受付(大学受付)印をもらう。
 - ②訪問企業で確認印等をもらう。
 - ③原則として、担当教員から確認の押印をもらう。
 - ④キャリアセンターで受付(大学提出)印をもらう。
 - ⑤教務課へ提出。
 - ハ) クラブ活動における関西大会以上の公式試合、並びに大会に参加するため予め許可を得た者。(大会期間+往復日数)
 - 二) 各時限において、交通機関の遅延により受験できなかった者で、30分以上の遅延が証明できる(Web遅延証明書、または公の証明書に発生年月日、時間帯が明記され、代表者の印のあるものに限る。)場合、発生した当日に教務課窓口に申し出て、申請事項と相違ないと認められた者。
 - ホ) 試験期間および期間外に次の事項で特別に休んだ場合、保護者および他の証明書がある者。
 - ・父母、配偶者(それに準ずる者を含む)または子が死亡した時(7日+往復日数)
 - ・祖父母または兄弟姉妹が死亡した時(2日+往復日数)
 - ・上記の親族における1周忌までの法要を行う時、または上記以外の親族が死亡した時(1日+往復日数)
 - ・交通事故で被害者の場合は、事故が発生したその日から追試験を受験できる日まで。
- ※その他特別な理由のある者は、別に審議します。

申し込み方法

追試験を受験するためには、「追試験受験願」に必要事項を記入し、決められた申し込み期間内(別途ポータルシステムに記載します。)に、受験料(1,000円/1科目)を添えて申し込んでください。

追試験受験可否については、教授会において審議し決定します。その結果は、ポータルシステムからお知らせ配信で発表します。

メール通知設定の登録を必ずしてください。

ただし、就職試験、交通機関の遅延および裁判員としての職務従事のために定期試験を受験できない場合は、受験料は必要ありません。

成績

正しく履修登録された科目について、所定の試験を受けた結果、成績が「S」「A」「B」「C」に評価された場合に単位修得となります。

成績評価

基準	評価	
100点～90点以上	S (秀)	合格
90点未満～80点以上	A (優)	
80点未満～70点以上	B (良)	
70点未満～60点以上	C (可)	
60点未満	D (不可)	不合格
成績評価に至らない	*	

注1) * (アスタリスク)について

「Webシラバス」に明示された各科目の成績評価基準に基づき、成績評価に至らない場合は* (アスタリスク)となります。

≪「Webシラバス」を参照するには、ポータルシステム ©大阪商科大学 学務システム **Portal-OSU** Webシラバスにアクセスしてください。≫

注2) T (認定)について

教授会で認められた場合は、60単位を超えない範囲で本学での単位として認定します。(P18参照)

- 1) 入学前および入学後における他の大学、短期大学で修得した単位。
- 2) 短期大学・高等専門学校における学修や、その他文部科学大臣が別に定める学修。
- 3) インターンシップなどの単位認定科目。(詳細は学科により異なります)

成績発表

「履修登録確認表」で登録が確認された科目以外は、単位を修得することができません。

パピルスメイト (証明書自動発行機) で年間2通まで成績表を発行することができます。

≪ポータルシステム ©大阪商科大学 学務システム **Portal-OSU** ③教務システム (履修・シラバス) にアクセスし、成績表で確認してください。≫

通年科目の中間試験・前期集中講義については、前期成績発表はありません。
成績発表 (交付) 日程は当該年度の学年暦を参照してください。

成績
問い合わせ

発表された成績について調査を依頼する (納得できない) 場合には、教務課で所定の様式により手続きをしてください。

成績発表開始日以降の所定期間 (約5日間) であれば問い合わせることができます。ただし、卒業予定者については、成績発表開始日より所定期間 (約2日間) まで問い合わせに応じます。(詳細日程はポータルシステムよりお知らせします。)

なお、問い合わせの根拠 (納得できない) 理由は、シラバスの「成績評価基準・方法」欄および「成績評価D」に該当する*の基準」欄を参考にして客観的な事実のみを拠りどころとして記述してください。私情を交えた嘆願的文書は受付けません。

電話・メールによる受付はできません。

平均点
算出方法

平均点は成績評価に基づき、次の式により算出します。

評価	S	A	B	C
点数	97	85	75	63

$$\text{平均点} = \frac{(S \text{ の数} \times 97) + (A \text{ の数} \times 85) + (B \text{ の数} \times 75) + (C \text{ の数} \times 63)}{S \text{ の数} + A \text{ の数} + B \text{ の数} + C \text{ の数}}$$

GPA制度と修学指導・退学勧告

本学では、学生の皆さんの学修意欲向上と、教職員による適切な修学指導支援のため、GPA (Grade Point Average) 制度を設けています。

GPAの値が著しく悪化した場合には、学科の教育職員から修学指導を受けることとなり、また場合によっては退学勧告を受けることもあります。

学生の皆さんはGPA制度の趣旨を十分理解し、卒業に向けてより効果的な学習を行ってください。

GPAとは	GPAとはアメリカなどの大学で多く使用される成績の評価方法で、S・A・B・C・Dといった成績評価をGP (Grade Point) と呼ばれる数値に置き換え、それにそれぞれの取得単位数を乗じたものを履修申請単位数で除して算出される1単位あたりの平均値です。仮に、単位を取得することができた科目の成績が良くても、一方で不合格となった科目の数も多ければGPAは高くなりません。 したがって、GPAを高い水準に保つためには、履修登録した科目をひとつひとつ丁寧に学習し、それぞれ高い評価で合格することが必要となります。												
GP	GPは、成績評価に基づき下表のとおりとします。 <table><tr><td>成績評価</td><td>S</td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D・*</td></tr><tr><td>GP</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr></table>	成績評価	S	A	B	C	D・*	GP	4	3	2	1	0
成績評価	S	A	B	C	D・*								
GP	4	3	2	1	0								
GPA計算式	GPAは次の式により算出します。 $\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{Sの取得単位数}) + (3 \times \text{Aの取得単位数}) + (2 \times \text{Bの取得単位数}) + (1 \times \text{Cの取得単位数})}{\text{履修申請した総単位数}}$ (小数点第4位以下切り捨て) なお、GPAの算出には、卒業要件に算入されない教職課程の科目も含め、すべての科目が対象となります。 また、GPAは「年度GPA」(年度ごとのGPA)と「累積GPA」(入学以後の通算GPA)の二つに分けられます。												
GPA制度のねらい	GPAは「4」に近いほど学修状況が良好であることを示します。 一方で、GPAが「0」に近ければ、履修登録単位数が過剰であったり、体系的・効率的な履修ができていないなど、学習状況に何らかの問題が生じている可能性があります。 そういった問題を適宜発見し、教職員の指導も交えながら、皆さんの以後の学習改善に繋げるためにGPA制度は有効であるといえます。なお、学修成果把握の目安として成績表に順位を表示します。												
修学指導・退学勧告	大学は、GPAが著しく低くなった学生に対し、単位修得状況に応じて、各学科で修学指導(相談)が行われ、また下記の手続きを経て退学勧告を行うことがあります。 1. 1年次終了時において累積GPAが0.500未満の者には、各学科が指定する教育職員が面談の上、次年度以降に向けた適切な修学指導を行う。 2. 2年次以降の各年度終了時において累積GPAが0.500未満の者には、各学科が指定する教育職員が面談および修学指導を行う。 3. 前項の面談および修学指導を行った教育職員は、その結果を学科主任に報告する。 4. 前項の報告を受けた学科主任は、今後の改善見込みの可否について判断し、改善の見込みがないと判断した場合は、学部長に判断結果を報告する。 5. 前項の報告を受けた学部長は、学科主任と協議を行い、改善の見込みがないと判断した場合は、当該学生への退学勧告について、教授会の議を経て学長に報告する。 6. 前項の報告を受けた学長は、当該学生に対し退学勧告を行う。 ただし、GPA制度はあくまでも学生の皆さんの学習意欲向上を目的としているため、むやみに退学勧告を行うことはありません。 上記に定める学科の教育職員の面談・修学指導により、以後の学習改善に向けた意欲が確認できれば引き続き修学することが可能です。 一方で、「面談の呼び出しに応じない」「面談したが学習改善に向けた意欲が見られない」といった場合は、退学勧告の対象となることがありますので注意してください。												

成績表の見方

(ASD010R01)

PAGE: 1 / 1

成績表

〇〇学部
〇〇学科 〇〇コース

20XX 年 4 月 1 日 入学

学籍番号 99X999

学名 サンダイ タロウ

氏名 産大 太郎

表A

科目名	単位	評価	科目名	単位	評価
【総合教育科目】 【教養教育科目】 表能力基礎演習 (人文科学)	選択2	B			
論理学	選択2	A			
心理学	選択2	B			
社会思想史 (社会科学)	選択2	C			
日本国憲法	選択2	B			
経済学の基礎	選択2	B			
近代史	選択2	S			
地理学	選択2	A			
(学園領域) 外国の社会と文化	選択2	C			
倫理学(工業倫理を含む。) (言語文化科目)	選択2	C			
英語(Listening&Speaking)1	選択1	S			
英語(Listening&Speaking)2	選択1	C			
英語(Reading&Writing)1	選択1	B			
英語(Reading&Writing)2 (初修外国語)	選択1	C			
ドイツ語入門1	選択1	C			
ドイツ語入門2	選択1	C			
フランス語入門1	選択1	C			
中国語入門1	選択1	C			
(身体科学科目) スポーツ科学	選択2	B			
【専門教育科目】 【専門基礎科目】 基礎数学および演習	選択2	A			
基礎物理学	選択2	C			
解析学1	必修2	B			
解析学2	必修2	C			
代数学1	必修2	S			
代数学2	必修2	A			
工業数学	必修2	C			
工業数学演習	必修1	B			
物理学2	必修2	B			
化学	必修2	B			
工業力学1	必修2	C			
材料力学1	必修2	B			
材料力学演習	必修1	B			
材料力学2	必修2	C			
機械動力学	必修2	C			
機械製作法	必修2	B			
図形科学	必修2	B			
機械製図	必修2	C			
機械設計学1	必修2	C			
CAD演習	選択1	D			
材料工学1	必修2	C			
流体工学1	必修2	B			
流体工学演習	必修1	B			
熱工学1	必修2	C			
熱工学演習	必修1	C			
電気工学1	必修2	B			
電気工学2	選択2	C			
情報基礎演習	必修1	B			
外国語読読	必修2	A			
交通機械基礎実習	必修2	B			
交通機械実験・実習1 (専門応用科目)	必修2	C			
自動車構造論1	必修2	B			
自動車構造論2	必修2	C			
自動車性能論	必修2	B			
自動車強度論	必修2	B			
自動車長距離工学	必修2	A			
自動車整備工学	必修2	C			
交通自動機学1	必修2	B			
自動車二輪工学	選択2	C			
トライボロジー	選択2	C			
福祉機械	選択2	C			
交通機械デザイン論	選択2	B			
自動車工学実習1	必修4	C			
自動車工学実習2	必修4	C			
自動車工学実習3	必修2	C			
交通機械実験・実習2 (社会・卒業研究)	必修2	B			
セミナー	必修2	A			
一 以下余白					

科目区分	卒業 要件単位数	修得卒業 要件単位数	修得 単位数
教養教育	—	—	18
言語文化 (内 英語)	8以上 (4以上)	8	8
身体科学	—	—	(4)
総合教育(小計)	24以上	24	28
必修 選択	78	71	71
(内 自由科目)	14以上	14	20
専門教育(小計)	0~4	—	(0)
	92以上	85	91
合計	124	117	119

卒業要件外教職科目	修得単位数
教科に関する科目 / 教科又は教職に関する科目	0
教職に関する科目	0

20XX年度 GPA	累積 GPA
1.684	1.491

20XX年度 GPA順位	累積 GPA順位
/999	/999

卒業要件の参入対象
ではない科目
(教職免許科目)の
集計欄

評価欄:
左寄り: 前年度までに単位修
得済の科目の評価
右寄り: 今年度に履修した科
目の評価

単位欄:
科目の属性と単位数
(科目の属性)
必修…必修科目
選必…選択必修科目
選択…選択科目
コ必…コース指定必修科目
指必…指定選択必修科目

(注)

- 進級判定時の順位を表示
- 休学履歴がある場合または休業年限を
超える場合は順位を非表示

<成績評価>
S (秀): 100~90点 T (特): 認定
A (優): 89~80点 D (不合格): 59点以下
B (良): 79~70点 * (未受検科目)
C (可): 69~60点

表B

履修年次	卒業資格	履修年次	卒業資格
4 年次	有	有	卒業
履修制限 (指定先行科目)	履修年次	卒業資格	卒業資格
中途退学単位数	50		

20XX 年 9 月 19 日

大阪産業大学 教務課

科目名欄:
前年度までに単位修得済の科目
および
今年度履修した科目

表④について

④	①	②	③
科目区分	卒業要件単位数	修得単位数	履修単位数
教養教育	8以上	8	18
言語文化 (伊・英語)	4以上	4	(4)
身体科学	—	—	2
総合教育(小計)	24以上	24	28
必修	78	71	71
選択	14以上	14	20
(内 自由科目)	0~4	—	(0)
専門教育(小計)	92以上	85	91
合計	124	117	119

①卒業要件単位数

卒業に必要な単位数

②修得卒業要件単位数

修得している全ての単位のうち卒業要件としてカウントされた単位数
修得卒業要件単位数の要件を充足しているかを判断します。科目区分毎の要件を超えて表示されることはありません。

③修得総単位数

修得している全ての単位数(卒業要件としてカウントされていない単位数を含む)

④科目区分、卒業要件単位数欄

学部学科が定めた要件区分名を示します。

表⑧について

⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
履修年次	卒見証発行	卒研資格	履修年次	次年度
4年次	有	有	卒業	
⑧履修制限(指定先行科目)	発表時	次年度		
申請制限単位数	50			

⑤履修年次

2年次	2年次に進級
3年次	3年次に進級
4年次	4年次に進級
卒業	卒業見込
卒1	卒業確定
4留	卒業延期
9月卒	9月卒業確定

⑥卒見証発行(3年次/6セメ以上)

有	無
卒業見込証明書 発行可	卒業見込証明書 発行不可

卒業見込証明書とは、当該年度に卒業が可能であることを証明するもので、就職活動等に必要です。

【発行条件】

- ①既に卒業要件単位数を充足していること。
- ②卒業要件単位を充足できる履修申請が完了していること。
- ③3年(編入生は1年)以上在学していること。

⑦卒研資格(3年次)

有	無	既有	済
卒業研究 履修可	卒業研究 履修不可	卒業研究 履修可 (前年度より)	卒業研究 単位修得済

※各学科により資格が異なりますので、Chapter02で確認ください。

⑧履修制限

経営学科	S1	来年度「研究ゼミナール」を履修する事ができません。
商学科	S1	「専門演習B」を履修する事ができません。
	S2	来年度「卒業演習」「卒業研究」を履修する事ができません。
	S1	「専門演習3」を履修する事ができません。
	S2	「専門演習4」を履修する事ができません。
経済学部	S3	「専門演習5」を履修する事ができません。
	Z	2年次後期終了時までに「専門演習1」を含む卒業要件単位が28単位以上修得していない場合は、学科配属が決定されません。(従って、3年次からの「専門演習2」が履修できません。)

※21B・21C・21Eの編入生は上表とは異なります。Chapter03で確認ください。

授業料（等）の納入について

授業料、教育環境充実費（以下「授業料（等）」という。）は前期と後期に分け、それぞれ年額の2分の1を納入していただきます。

また、諸会費（学生会費・自治会費・校友会費・後援会費・学生健康保険組合費）は入学時から8回（編入生は4回）に分けて、授業料（等）の納入時に併せて納入していただきます。

なお、1年分をその年の最初の納入期限までに一括して納入することができます。

詳しくは、本館9階経理課窓口にお問い合わせください。

一旦納入された授業料（等）は、返還いたしません。

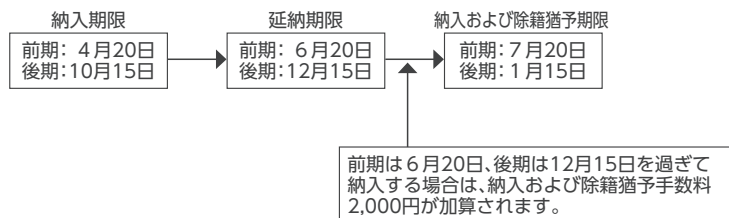
納入期限

	前期	後期
授業料（等）納入期限	4月20日	10月15日

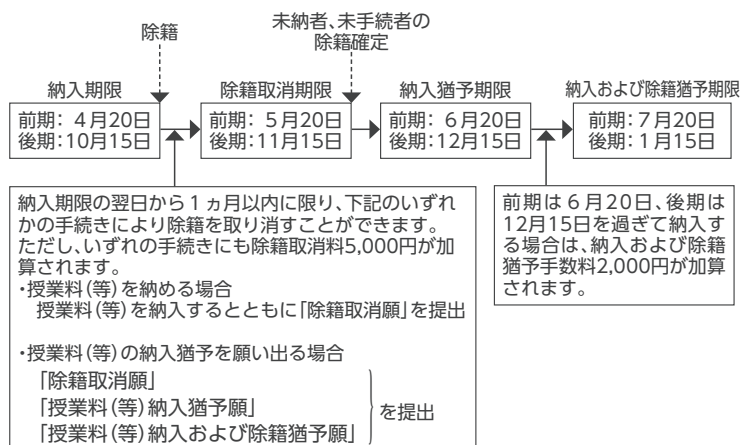
注）納入最終日が銀行の休業日にあたる場合は、その翌営業日を納入期限とします。

※休学願・退学願の手続き期限も同様です。

■納入期限までに延納申請（「授業料（等）延納願」「授業料（等）納入および除籍猶予願」）の提出を行った場合



■納入期限までに（授業料（等）を納めなかった）場合
延納申請を行わなかった



振込依頼書

◎納入方法・金額については、授業料等振込依頼書に記載しています。
※金額については、大阪産業大学学則、別表第3に記載しています。
(在学年数が4年を超える学生および2年を超える編入生についても記載)

◎送付時期

前期は3月下旬、後期は9月上旬に保護者宅へ送付します。
※送付されない場合または紛失した場合、本館9階経理課へお問い合わせください。

学籍異動（休学・退学・除籍 等）

学籍異動と授業料（等）納入期限は密接に関係しています。内容をよく確認の上、休学・退学は事前に教務課までご連絡ください。

休学

病気その他の理由で休学しようとする者は、在籍料を納付し、「休学願」「在籍料納付書」を教務課経由で学長に提出し、教授会の議を経て、学長の許可を受けなければなりません。

◎手続きの流れ

教務課で「休学願」と「在籍料納付書」を受け取る。
※学科によっては、事前に面談が必要です。教務課までお問い合わせください。



「休学願」と「在籍料納付書」に必要事項を記入する。
本館1階の証紙券売機で、在籍料分の証紙を購入し、在籍料納付書に貼付する。



本館9階の経理課に、貼付済の「在籍料納付書」を持参し、在籍料を納付する。



納付後、領収書と控えを受け取り、「休学願」と「在籍料納付書控え」を教務課に提出する。

◎休学期間、提出期限、在籍料について

	通年休学（1年間）	前期休学	後期休学
休学願等提出期限	4月20日	4月20日	10月15日
休 学 期 間	4月1日～3月31日	4月1日～9月20日	9月21日～3月31日
在 籍 料	12万円	6万円	6万円
提 出 書 類 等	休学願、在籍料納付書控え、診断書（病気や怪我の場合）		

◎休学に関するきまり（学則第20条、学費納入規程第3条の2ほか）

1. 休学期間は通算して3年を超えることはできません。
2. 休学期間の授業料および教育環境充実費は徴収しません。ただし、学期の途中から休学する場合は、その学期の授業料および教育環境充実費は全額徴収します。
3. 休学願等の提出期限は、授業料（等）の納入期限と同日です。ただし、納入最終日が銀行の休業日に当たる場合は、その翌営業日を納入期限としますので、休学願等の提出期限も同様となります。

◎休学による進級や卒業時期への影響

学科によっては半期の休学でも卒業は1年遅れる場合がありますので、注意してください。
詳しくは、教務課で確認してください。

	◎次のような場合は、まず教務課までお問い合わせください。 1. 新入生(新編入生含む)が入学後すぐに休学する場合は、入学時に納入された授業料(等)は、休学期間終了後、復学時の授業料(等)に充当しますので、いかなる場合も一切返還いたしません。また、その上で、休学期間に応じた在籍料納付が必要です。 2. 留学生で、兵役により年度をまたぐ長期休学が必要な場合については、年度ごとの休学願の提出と、全休学期間分の在籍料納付を一度にまとめて行ってください。								
復学	◎休学期間を満了すると、翌日(学期)から手続不要で自動的に復学となりますので、復学前(休学中)に、復学する学期の履修申請や学費納入等、手続きを期間内に行ってください。 ◎休学期間途中で復学する場合には、「復学願」を教務課に提出し、当該学期の授業料(等)を全額納入しなければなりません、当該学期の在籍料は返還します。 ◎病気、ケガによる休学から復学する場合は、修学に差し支えない旨の医師の診断書が必要です。手続きについては教務課にご相談ください。								
退学	病気その他やむを得ない理由で退学しようとするときは、「退学願」と学生証(返還のため)を教務課経由で学長に提出し、教授会の議を経て、学長の許可を受けなければなりません。 <table><tr><td></td><td>前期</td><td>後期</td></tr><tr><td>提出期限</td><td>4月20日</td><td>10月15日</td></tr></table> ※退学願の提出期限は、授業料(等)の納入期限と同日です。ただし、納入最終日が銀行の休業日にあたる場合は、その翌営業日を納入期限としますので、退学願の提出期限も同様となります。 <table><tr><td>提出書類等</td><td>退学願、学生証(返却)</td></tr></table> 提出前に必ず教務課にご相談ください。 ※通年休学(1年間)中に前期(4月1日から9月20日)の途中に退学した場合、後期(9月21日から3月31日)休学分の在籍料は返還します。 ※休学期間満了日は、前期9月20日または後期3月31日ですが、休学中に退学を願い出た場合、事情に応じて、願い出日を退学日とすることができます。ただし、学期(休学期間)を遡って退学することはできません。		前期	後期	提出期限	4月20日	10月15日	提出書類等	退学願、学生証(返却)
	前期	後期							
提出期限	4月20日	10月15日							
提出書類等	退学願、学生証(返却)								
除籍	学生が、次の各号のいずれかに該当するときは、除籍となります。 (1) 授業料(等)について、納入期限を超えても納めないとき (2) 長期に渡って欠席し、または病気その他の理由で成業の見込みのないと認めたとき (3) 学部の同一学科において、休学期間を除き、在学期間が修業年限(学部は4年)の2倍を超えたとき ※経済学部においては、学科配属前の期間を含みます。 (4) 死亡したとき								
再入学	除籍または退学した学生が再入学を希望するときは、再入学試験に合格し、合格手続期間内に再入学金ならびに再入学する学期の授業料(等)を納入しなければなりません。再入学時の授業料(等)については、延納申請ができませんのでご注意ください。 なお、再入学試験の受験資格は、出願時に退学後3年を超えない者、除籍後3年を超えない者となっています。 ※特別な理由がある者については、3年を超えても再入学の願出を認めることがあります。また、再入学の試験その他に関しては、教務課にご相談ください。								

各種届出用紙は教務課窓口で受け取るか、以下の通り大阪産業大学Webサイトよりダウンロードが可能です。

大阪産業大学Webサイトトップページ>キャンパスライフ>各種届出・証明書

転科・学部変更について

本学の学生が、現在の学部・学科から他学部・他学科へ移籍することです。

募集の詳細は、「転科・学部変更試験要項」で確認してください。(検定料: 15,000円)

① 出願資格

- ・志望する学部の学科に欠員があること。(欠員状況によって実施しない学科もあります。)
- ・1年在学あるいは2年次以上で、改めて当該学科2年次への転籍等を希望する者。
- ・卒業予定者および休学中の学生は「転科・学部変更試験」を受験できません。

② 転科・学部変更試験要項について

- ・例年12月末に本学Webサイトにアップロードし、教務課窓口でも配布いたしますので、確認してください。

③ その他

- ・転籍後は学籍番号が変わりますので、合格手続きの際、確認してください。
- ・修得単位の取り扱いは、転籍先のカリキュラムに準じて単位移行されますが、全ての修得単位が移行されるとは限りません。
- ・合格発表後の辞退は認められません。

Chapter 02

23B 入学生

01	カリキュラムの概要	35
02	卒業要件単位数(外国人留学生も共通)	36
03	履修制限	40
04	履修申請	41
05	ゼミナール、テーマ別研究、単位認定科目	46
06	卒業見込証明書	47
07	資格取得	48
08	カリキュラム	49

01 カリキュラムの概要

経営学部経営学科のカリキュラムは、総合教育科目と専門教育科目の2つから成ります。

また、各科目には卒業要件単位数が決められており、総合教育科目から20単位以上、専門教育科目から84単位以上を修得する必要があります。

総合教育科目…20単位以上

専門教育科目…84単位以上

左記の2科目の合計は104単位で、卒業要件124単位に不足する20単位は各科目区分の要件単位を超えて補わなければなりません(38ページ参照)

以上2つの科目はさらに科目分野に分かれており、科目によっては必修とされて、卒業要件単位数が決められています。(詳しくは36ページ❶卒業要件単位数を確認してください。)

02 卒業要件単位数(外国人留学生も共通)

卒業するためには、以下の2つの条件を満たさなければなりません。

① 4年間(編入生は2年間)以上在学

休学期間は在学年数に含まれません。したがって、半期でも休学すると4年(編入生は2年)で卒業することができません。

② 学科で定められた卒業要件単位124単位以上(編入生は別途定める)を修得

カリキュラム上、区分ごとに卒業に必要な単位数が異なります。履修の仕方によっては単位を修得しても卒業要件単位に入らない場合がありますので、注意してください。

1 卒業要件単位数

総合教育 科目	教養教育科目	人 文 科 学	4 単位 (留学生のみ)	20単位 以上	124 単位	学 士 (経 営 学)
		社 会 科 学				
		自 然 科 学				
		学 際 領 域				
		日 本 文 化				
	人 間 教 育					
	言語文化科目	英 語	6 単位以上			
		初修外国語				
		日 本 語	8 単位 (留学生のみ)			
身 体 科 学 科 目						
専門教育 科目	経営学コース	必修 4 単位、選択必修 4 単位、選択76単位以上 (自由科目12単位を含む)	84単位 以上			
	会計スペシャリスト コース	必修14単位、選択必修10単位、選択60単位 以上 (自由科目12単位を含む)				
	ファッション ビジネスコース	必修 8 単位、選択76単位以上 (自由科目12単位を含む)				
4 年以上在学						

※総合教育科目の単位について、40単位までが卒業要件単位に含まれます。超える分は卒業要件単位には含まれません。

※専門教育科目の単位について、104単位までが卒業要件単位に含まれます。超える分は卒業要件単位には含まれません。

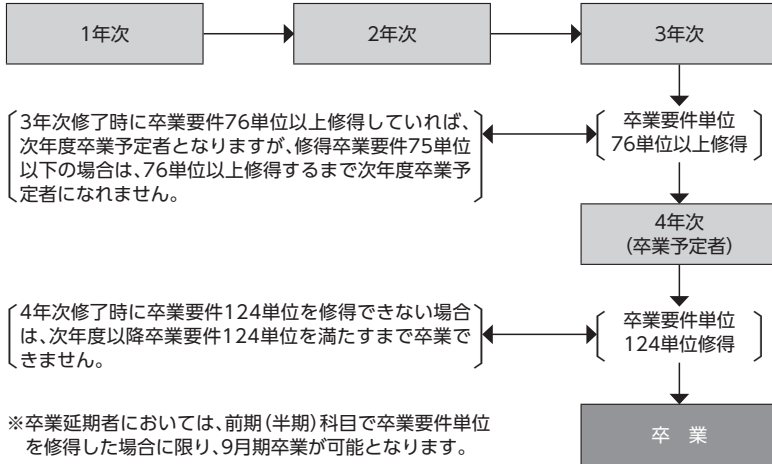
※自由科目の単位について、12単位までが卒業要件単位に含まれます。超える分は卒業要件単位には含まれません。

② 進級の条件

修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できますが、年間48単位(教職科目等を除く)を上限とする履修制限がありますので、計画的に修学してください。

原則として進級するためには、1年を通じて在学していなければなりません。なお、留学等の理由で休学する場合には、事前に教務課に相談ください。

進級および卒業までの流れ



3 卒業要件単位の修得要件

▶ **総合教育科目(20単位以上)** 40単位までが卒業要件単位に含まれます。

① **必修科目** (卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の単位数に○印のついた科目です。)

留学生以外の学生に必修科目はありません。留学生は、教養教育科目分野の日本文化科目群「日本事情1」、「日本事情2」2科目4単位、言語文化科目分野の日本語科目群「日本語読解1」、「日本語読解2」、「日本語作文1」、「日本語作文2」、「上級日本語読解1」、「上級日本語読解2」、「上級日本語作文1」、「上級日本語作文2」8科目8単位を必ず修得してください。

② **選択必修科目** (特定の科目群から指定された単位を修得します。)

言語文化科目分野から6単位を修得します。複数の言語も卒業要件単位に入りますが、初修外国語は最初に必要な「入門1および2」を履修しなければなりません。留学生は、履修しなくてもかまいません。

③ **選択科目** (必修、選択必修科目以外の中から自由に選んで修得します。)

①②以外に、14単位以上(留学生は8単位以上)を修得してください。制限により履修できない科目もあります。

▶ **専門教育科目(84単位以上)** 104単位までが卒業要件単位に含まれます。

経営学コース

① **必修科目** (卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の履修コース欄に○印のついた科目です。)

専門基礎科目群から「経営学基礎A」、「会計学基礎」の2科目4単位を必ず修得してください。

② **選択必修科目** (特定の科目群から指定された単位を修得します。)

カリキュラム表の▽印のついた8科目(詳しくは51ページ②専門教育科目を確認してください。)から4単位以上を修得してください。4単位が卒業要件単位数としてカウントされます。4単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位に入ります。

③ **選択科目** (必修、選択必修科目以外の中から自由に選んで修得します。)

76単位以上を修得してください。

※▽印のついた科目から4単位を超えて修得した単位も選択科目の単位に含まれます。(詳しくは39ページの図1を確認してください。)

会計スペシャリストコース

① **必修科目** (卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の履修コース欄に○印のついた科目です。)

専門基礎科目群から「経営学基礎A」、「会計学基礎」、「簿記基礎」の3科目6単位、ビジネススキル科目から「初級簿記A」、「初級簿記B」2科目4単位、会計・法律関連科目から「会計学総論」、「財務諸表分析」2科目4単位の、合計7科目14単位を必ず修得してください。

② **選択必修科目** (特定の科目群から指定された単位を修得します。)

ビジネススキル科目および会計・法律関連科目に含まれる所定の10科目20単位(詳しくは51ページ②専門教育科目を確認してください。)から5科目10単位以上を修得してください。10単位が卒業要件単位数としてカウントされます。10単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位に入ります。

③ **選択科目** (必修、選択必修以外の中から自由に選んで修得します。)

60単位以上を取得してください。

※ビジネススキル科目および会計・法律関連科目に含まれる所定の選択必修科目から10単位を超えて修得した単位も選択科目の単位に含まれます。(詳しくは39ページの図1を確認してください。)

ファッションビジネスコース

①必修科目 (卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の履修コース欄に○印のついた科目です。)

専門基礎科目群から「経営学基礎A」、「会計学基礎」の2科目4単位を、ファッションビジネスコース特設科目群から「ファッションビジネス入門」、「被服材料学」の2科目4単位、計8単位を必ず修得してください。

②選択科目 (必修科目以外の中から自由に選んで修得します。)

①以外に、76単位以上を修得してください。

※総合教育科目(20単位以上)、専門教育科目(84単位以上)の最低要件単位は合計104単位です。
卒業要件124単位に不足する20単位については、各区分の最低要件単位数を超えた単位で補ってください。

図1 成績表における専門教育科目の単位数の見方

科 目 区 分	卒業 要件単位数	修得卒業 要件単位数	修得 総単位数	
必修	4	4	4	
選択必修	4以上	(1) 4	6	
選択	76以上	(2) 40 ←	38	← +2
(内 自由科目)	(0~12)	-	(4)	
専門教育(小計)	84以上	48	48	

(1)について

選択必修科目は4単位以上修得が必要です。4単位が卒業要件としてカウントされます。4単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位に入ります。

この場合、修得している単位数は6単位です。4単位が選択必修科目の卒業要件としてカウントされるため、選択必修科目の修得卒業要件単位数は4単位となります。

(2)について

選択科目は76単位以上修得が必要です。この場合、選択科目を38単位修得しています。選択必修科目のうち、選択必修科目の卒業要件としてカウントされていない2単位は選択科目の修得卒業要件単位に入るため、選択科目の修得卒業要件単位数は40単位となります。

※上記成績表は、経営学コースの場合で説明しています。会計スペシャリストコースの場合も専門教育科目の単位数の見方は同じですが、必修、選択必修、選択の単位数が異なります。

03 履修制限

経営学科には以下の制限がありますので、注意してください。

23B学生に適用

1年間に履修できる単位数		最大48単位 ただし、教員免許取得に係わる以下の科目は除きます。 ・「教科及び教科の指導法に関する科目」に規定する科目のうち職業指導および「各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)」 ・「教育の基礎的理解に関する科目等」および「大学が独自に設定する科目」 ただし、人権教育および生涯学習論の2科目は履修制限に含む。※1
学年による科目の制限		1年次:1年次配当科目を履修することができます。 2年次:1、2年次配当科目を履修することができます。 3年次:1～3年次配当科目を履修することができます。 4年次:すべての開講科目を履修することができます。
総合教育科目	教養教育科目	■「表現力基礎演習」は全員履修科目のため、初年度に必ず履修してください。 ただし、留学生は「表現力基礎演習」を履修しなくてもかまいません。 ■留学生は、「日本事情1・2」を必修科目とします。
	言語文化科目	■初修外国語(独・仏・中・朝)を履修する場合は、最初に必ず「入門1・2」を履修してください。(中上級科目との同時履修可) ■英語については、プレイスメントテストの結果により、初年度のみ習熟度別クラスに登録されます。履修を希望しない学生は、プレイスメントテストを受けてはいけません。留学生に英語プレイスメントテストは実施しません。 ■留学生は、「日本語読解1・2」「日本語作文1・2」「上級日本語読解1・2」「上級日本語作文1・2」の8単位を必修とし、母語を履修することはできません。※2
	ゼミナール科目	■「研究ゼミナール」を履修するためには「専門ゼミナール」を、「卒業研究」を履修するためには「研究ゼミナール」を修得しておかなければなりません。 ■「専門ゼミナール」、「研究ゼミナール」および「卒業研究」は、原則として同一教員で履修しなければなりません。
	コース特設科目	■コースの特設科目群については、それぞれに対応したコースでしか履修することができません(一部例外があります)。
その他		既に単位認定を受けた科目を、再度履修することはできません。

※1詳しい科目については教職課程ガイドブックを参照してください。

※2履修を希望する初修外国語科目が母語でないにもかかわらず申請画面に表示されていない場合は、教務課までお問い合わせください。

母語の初修外国語科目が表示されている場合でも、母語は履修できませんのでご注意ください。

成績表に表示される履修制限メッセージ

S1	来年度「研究ゼミナール」を履修することができません
----	---------------------------

・コース変更は、経営学コースと会計スペシャリストコースの相互変更および、ファッションビジネスコースから経営学コースへの変更に限り認められています。

・コース変更したい者は、毎学年の2月末までに申請書を提出し、変更が認められる場合があります。その場合は、次年度の4月より変更が認められたコースとなります。なお、コース変更の申請は、3年次の2月末までとします。

・コース変更前に修得した各コース特設科目の単位は、選択科目として卒業要件単位に算入することができます。

04 履修申請

大学ではあらかじめ決められた時間割表のとおり授業を受けるのではなく、全科目の時間割表に載っている科目の中から自分が受けた科目を選び、自分の作った時間割表にもとづき授業を受けます。

ここからは、実際にどのような感じで履修申請をしていけばよいかの目安を簡単に説明します。(あくまでも目安ですので、必ずこの通りに申請しないといけないわけではありません。)

1 1 年次における履修申請について

▶ あらかじめ履修申請されている科目の確認

- ・必修科目と全員履修科目は、あらかじめ履修申請が行われています。
- ・1年次の必修科目は、経営学基礎A(2単位)、会計学基礎(2単位)の2科目4単位です。
- ・1年次の全員履修科目は、専門教育科目の入門ゼミナールA・B(各2単位)、コンピュータ・リテラシ(2単位)と総合教育科目の表現力基礎演習(2単位)の4科目8単位です。
- ・したがって、1年間の履修制限48単位のうち上記12単位分は申請済みとなりますので、残り36単位分の科目を選択し履修申請をします。
- ・留学生は日本語や日本文化に関連する科目が必修です。1年次には日本語科目4科目4単位、日本文化科目2科目4単位が用意されています。したがって1年次には残り28単位分を選択し履修申請しましょう。

全員履修科目に関する注意事項

- ① 全員履修科目は選択科目ですので不合格になっても卒業はできますが、全員に受講してもらいたい重要な科目ですのでしっかりと講義を受けてください。
- ② コンピュータ・リテラシは新入生しか受講することができません。この科目は一般的なPCの操作法だけでなく、本学のPC演習室を利用する際の注意事項や本学が提供する様々なサービスの利用法なども学びます。2年次以降は、この科目で学んだことを前提にコンピュータを利用しますので必ず受講してください。

▶ 総合教育科目の履修申請

- ・1年次は総合教育科目を多く申請するようにしましょう。
- ・卒業までに言語文化科目を6単位以上修得しなければなりません。1年次のうちに4単位以上修得するようにしましょう。
- ・総合教育科目は卒業までに20単位以上修得しなければなりません。語学の選択必修6単位以外に、あと14単位以上修得することが必要です。
- ・1年次では表現力基礎演習の2単位分は申請済みですので、それ以外の科目であと10単位以上申請しておけばよいでしょう。

言語文化科目の注意事項

- ① 基本的に1科目につき1単位ですので、6単位以上をクリアするには6科目以上合格しなければなりません。1年次のうちにある程度単位をとっておかないと、2年次、3年次になって専門教育科目を選択するのが難しくなります。1年次では4単位以上を目標にしましょう。
- ② クラス登録制になっていますが、一度登録されたクラスは変更や取り消しができませんので慎重に申請してください。

▶ 専門教育科目の履修申請

- ・次に専門教育科目について、1年次ではビジネススキル科目に注目します。
- ・ビジネススキル科目は資格取得を目標とする科目です。これらの科目を受講することで将来に向けて興味のある分野が見えてくるでしょう。1年次では同一分野の科目より、いろいろな分野の科目にチャレンジすることをお勧めします。
- ・その他の専門科目の中から興味のある科目を選びます。Webシラバスを活用し、科目の内容を確認した上で選択しましょう。

1年次の履修申請のチェックポイント

ここまでの説明で推奨する申請単位は、以下のようになります。

- ① 必修科目・全員履修科目=12単位
- ② 言語科目=4単位以上
- ③ その他の総合教育科目=10～14単位程度
- ④ その他の専門教育科目=16～20単位程度(興味のある科目を選びましょう)

・必ず40単位以上、できれば48単位を申請するようにしましょう。

ただし、履修申請した授業の単位を取得できない場合、GPA(P.25)が下がりますので、申請した授業の単位はきちんと取得しましょう。

・Webシラバスを活用し、各科目がどのような内容なのかを調べて選択しましょう。

・入門ゼミナールAの第1、2回目の授業のときに、みなさんの履修申請状況を担当の教員がチェックします。各自の時間割表を印刷して出席してください。分からないことなどはその時に聞きましょう。

・本館1階の教務課にも相談するとよいでしょう。

▶ 会計スペシャリストコースの履修申請

- ・一部の必修科目は、あらかじめ履修申請が行われています。
- ・1年次の必修科目は、簿記基礎(2単位)の1科目2単位です。
上記2単位は申請の必要はありません。
- ・初級簿記A(2単位)と初級簿記B(2単位)は、必修科目ではありますが、あらかじめ履修申請はされていません。各自の簿記の習熟度に応じて、任意の時期に履修申請を行ってください。
- ・商業簿記A(2単位)、商業簿記B(2単位)、工業簿記A(2単位)、工業簿記B(2単位)は、選択必修科目であり、会計スペシャリストコース生のみ1年次から履修申請ができますが、非常に難易度の高い授業です。各自の簿記の習熟度に応じて履修申請を行ってください。

▶ ファッションビジネスコースの履修申請

- ・必修科目と全員履修科目は、あらかじめ履修申請が行われています。
- ・1年次の必修科目は、ファッションビジネス入門(2単位)、および被服材料学(2単位)の2科目4単位です。
開講期はコース向けガイダンスで説明します。
- ・全員履修科目は、ファッションビジネス論(2単位)、および被服整理学(2単位)の2科目4単位ですが開講期はコース向けガイダンスで説明します。
- ・上記8単位は申請の必要はありません。

② 2年次以降の履修申請について

- ・2年次からは専門教育科目の多くが履修できるようになります。
- ・卒業研究(4年次・後期 2単位)を履修するためには研究ゼミナール(4年次・前期 2単位)を、研究ゼミナールを履修するためには専門ゼミナール(3年次・4単位)を履修し、単位を修得しておかなければなりません。
- ・基礎ゼミナールA・B、専門ゼミナール、研究ゼミナール、卒業研究は、年間の履修制限48単位に含まれます。

▶ あらかじめ履修申請されている科目の確認

- ・専門教育科目の基礎ゼミナールA(2単位)、基礎ゼミナールB(2単位)、専門ゼミナール(4単位)、研究ゼミナール(2単位)の4科目10単位はあらかじめ履修申請が行われています(研究ゼミナールは専門ゼミナールの単位を修得した者のみ)。
- ・専門教育科目の経済学(2単位)と財政学(2単位)の2科目4単位はあらかじめ履修申請が行われています(会計スペシャリストコースのみ)。
- ・専門教育科目のアパレル企画論(2単位)の1科目2単位はあらかじめ履修申請が行われています(ファッションビジネスコース生のみ)。

▶ 総合教育科目の履修

総合教育科目について、2年次には、1年次の履修では卒業要件をみたせなかった科目をクリアするようにしましょう。できるだけ2年次で総合教育科目の20単位(言語文化科目6単位と教養教育科目を合わせて)を修得しておきましょう。

3年次以降は、専門科目の単位修得状況をみながら、レベルの高い外国語科目や興味のある科目を履修するとよいでしょう。

▶ 専門教育科目の履修

- ・経営学コース生は選択必修として特定の科目のうちから4単位を修得しなければなりません。
- ・会計スペシャリストコース生は、必修科目として初級簿記A、初級簿記B、会計学総論、財務諸表分析の4科目8単位を修得しなければなりません。また、選択必修として特定の科目のうちから10単位を修得しなければなりません。
- ・興味のある分野から重点的に履修しても、多くの分野の科目を幅広く選択してもかまいません。しかし、卒業するためには複数分野の科目の単位を修得しないと、卒業要件単位数をみたすことは不可能です。2年次の段階では、興味のある分野をより確かなものにするためにも、多くの分野の科目を受講することをお勧めします。
- ・キャリアスキル科目は、就職することの意義や就職活動の際に必要な知識、考え方、心構えなどを学び、将来への就職意識を高めるための科目群です。科目の性質上、定員が設定されていますが、積極的に受講しましょう。
- ・万一1年次に単位を修得できなかった必修科目や選択必修科目がある場合、2年次で必ず単位を修得するのがポイントです。

ここまで、経営学コース1、2年次の場合を中心に説明してきましたが、1、2年の間に以下のポイントをクリアすることを目標にがんばりましょう。

1、2年次のクリア目標

- ① 必修科目4単位の修得。
- ② 専門教育科目での選択必修科目4単位の修得。
- ③ 言語文化科目6単位を含む総合教育科目20単位の修得（留学生は、日本語科目および日本文化科目12単位を含む20単位）。
- ④ ①～③条件をクリアした上で合計76単位以上を修得。

③ 修得単位数についての注意

- ・3年次後期には就職活動の準備が活発となり、大学での勉強と就職活動の準備を両立させることが大変になってきます。
- ・4年次になったときに卒業要件単位を修得できていないと、講義に出席するか就職活動に行くかを悩むこととなります。
- ・就職活動のために講義を休みがちで不合格になり、その単位が不足したために留年することもあります。
- ・そのような事態を避けるためにも、2年次までに修得できる単位はしっかり修得してください。必修や選択必修など制限のある科目は4年次に残さないようにして、余裕を持って就職活動にのぞめるようにしましょう。
- ・3年次までの修得単位数が少ないと企業は卒業可能であるかについて不安を感じ、敬遠する可能性があります。

④ その他、履修申請についての注意事項

①言語文化科目

- ・クラス登録科目なので、第1希望のクラスとならない場合もあります。
- ・新入生の英語については、プレイメントテストの結果発表に従って履修申請してください。

※初修外国語の履修について

初修外国語には、ドイツ語/フランス語/中国語/韓国・朝鮮語の4つの言語があります。また、各言語にはそれぞれ「初修外国語入門1・2」、「初修外国語初級1・2」、「初修外国語総合1・2」があります。履修を希望する場合には、各言語の「初修外国語入門1・2」から履修をするようにしてください。(クラス登録科目なので、前期履修申請時のクラス登録応募期間に応募をしてください。)

修得した単位は、総合教育科目の言語文化科目に算入されます。

②身体科学科目

- ・再履修者は、再履修者専用クラスでの登録となります。
- ・リハビリコースクラスは、怪我などで運動に制限がある学生が対象となります。

③自由科目

他学部(自分の所属する学部以外)および他学科(自分の所属する学科以外)の専門教育科目を卒業までに30単位まで履修することができます。そのうち12単位までを、専門教育科目の選択科目として、卒業要件単位に算入することができます。(これを「自由科目」と称します。)ただし、履修の認められない科目がありますので、下表で確認してください。

自由科目を履修したい人は、Webシラバスをよく読んで選択してください。

自由科目は、Web履修申請画面で確認できる(表示されている)科目から選択してください。

経営学科

学部名	学科名	卒業要件に認められる単位	自由科目として扱わない科目
国際	国際	12単位	製図、演習、実験、実習、外国書講読、卒業研究 ※その他各学科の事情等により除外する科目
スポーツ健康	スポーツ健康		
経営	商		
経済	経済、国際経済		
デザイン工	建築・環境デザイン、情報システム、環境理工		
工	機械工、交通機械工、都市創造工、電気電子情報工		

(注意) 自由科目で卒業要件単位として認められるのは12単位までです。

12単位を超えて修得した自由科目は卒業要件単位数に加算されません。

05 ゼミナール、テーマ別研究、単位認定科目

① ゼミナール科目

- ・経営学科では、ゼミナールという科目(選択科目)を設けています。
- ・ゼミナールは、各自が関心や興味を持ち、より深く研究したいと思う専門分野について、指導教員やゼミ仲間とともに研究する科目です。
- ・少人数で構成されるため、講義科目に比べて発展的な研究を行ったり、親密な人間関係が形成できたりします。
- ・また、ゼミナールを通じた勉強や卒業論文の作成は、大学生活において特色のある取り組みを行っているとして、就職活動や進学の場合で役立つことがあります。
- ・ゼミナールの所属決定は、各自の志望理由や成績等を考慮した上で、担当教員が行います(募集については掲示等で案内します)。
- ・ゼミナールを志望する学生は、所定の方法・期限を守り申込みを行ってください。

科目名	配当年次	必/選	備考
入門ゼミナールA・B	1年次	選択	全員履修
基礎ゼミナールA・B	2年次	選択	全員履修
専門ゼミナール	3年次	選択	全員履修
研究ゼミナール	4年次	選択	全員履修 「専門ゼミナール」を修得していなければ、履修することができません。※1
卒業研究	4年次	選択	「研究ゼミナール」を修得していなければ、履修することができません。※1

※1:「専門ゼミナール」、「研究ゼミナール」、「卒業研究」は、原則として同一教員で行います。

② テーマ別研究科目

- ・経営学特殊講義A～D、会計学特殊講義A～D、特定産業研究A～Dの12科目については、不定期に様々なテーマで講義が行われます。
- ・注意しなくてはいけないのは、ある年度に経営学特殊講義Aに合格し単位を修得している場合、他の年度に違うテーマで開講された場合であっても、経営学特殊講義Aを履修することはできません。
- ・会計学特殊講義A～D、特定産業研究A～Dも同様、一度合格し単位を取得した場合、同科目重複して履修することはできません。
- ・修得した単位は、選択科目の単位数として計算されます。
- ・カリキュラム表の配当年次は、すべて1年前期になっていますが、内容によっては履修できる年次に制限を付ける場合があります。
- ・Webシラバス上では、科目名は次のように表示されます。

例：経営学特殊講義Aの場合…経営学特殊講義A(実際に行われるテーマ名)

履修するときはテーマ名や内容をシラバスでしっかり確認してください。

3 単位認定科目

「インターンシップ」とは

本科目は、経営学科の専門科目で、3年生を対象としています。インターンシップとは、皆さんが企業等の現場で一定の期間、就業を体験することです。仕事や企業に対する見方を養うとともに、自らの適性や適職を知ること、インターンシップが将来のキャリア形成の一助となることを目的としています。

経営学科が指定する「インターンシッププログラム」に参加し、所定の要件を充足すれば単位が認定されます。履修申請を必要としない単位認定科目(卒業見込み判定の関係上、3年次のみに単位認定することができる3年次配当科目)で、認定された単位は、選択科目の卒業要件単位に加算されます。

※受け入れ企業の状況により希望しても参加できない場合があります。

単位認定の条件

1. 経営学科所定の「インターンシッププログラム」(大学コンソーシアム大阪が主催するインターンシッププログラムまたは大学キャリアセンターを通じて申込み実施されたものに限り)に参加していること。
2. 大学コンソーシアム大阪が主催するインターンシッププログラムに参加した場合は、主催者が発行する修了証を提出していること。
3. 大学キャリアセンターを通じて申込み実施されたインターンシップに参加した場合は、単位認定申請書を提出のうえで、10月に開催するインターンシップ報告会に参加していること。
4. 参加するインターンシップは、原則5日以上であること。

「インターンシップ」に関する主なスケジュール

スケジュールについては、キャリアセンターから発表される内容を確認してください。

06 卒業見込証明書

卒業見込証明書の発行条件は、以下のとおりです。[4月1日以降発行]

- ①3年次修了時において、既に卒業要件単位を76単位以上修得している。
- ②4年次に履修申請した単位の修得によって卒業要件単位124単位を充足できる。

※卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、パピルスメイ ト(証明書自動発行機・設置場所はP9を参照)を利用してください。

07 資格取得

本学を卒業、または特定の科目を修得することによって得られる資格・免許(あるいは一部免除)を一覧表にしましたので、履修コースの選択や履修科目の参考にしてください。また、他にも卒業後の実務経験で得られる資格(要申請)、実務経験により受験資格が得られる資格、受験科目の一部が免除される資格など多数あります。それら資格(免許)の職務内容や取得方法に関しては、キャリアセンター・資格サポートセンター(本館2階)で相談してください。

1. 教員免許状

免許(資格)の種類	対象学科	取得の要件
高等学校教諭一種免許状(商業)	経営学部 全学科	それぞれの免許に定められた教職教科専門科目と教職専門科目を修得した者(詳細は教職教育センター実施のガイダンスで確認してください)

2. 特定の科目を修得することにより取得できる資格

資格の種類	認定の内容	対象学部	取得の要件
社会保険労務士	受験資格	全学部	卒業要件に必要とする62単位以上修得した者
一般社団法人 日本衣料管理 協定認定 2級衣料管理士	卒業時取得	経営学科 ファッション ビジネスコース	専門教育科目(経営関連科目、テーマ別教育科目ファッションビジネスコース特設科目)の所定の科目(㊦:31単位)を修得し、最終試験に合格した者

3. 本学実施の資格取得試験など

資格の種類	対象学部	取得の要件・その他
日本商工会議所認定 簿記検定試験 2・3・初級	全学部	試験合格(ネット試験を学内で実施する予定)

08 カリキュラム

1 総合教育科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分		科 目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考
					1年次		2年次		3年次		4年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
総合教育科目	教養教育科目	人文科学	哲 学	2	20以上	2							全員履修科目
			地 理 学	2			2						
			表 現 力 基 礎 演 習	2			2						
			日 本 の 社 会 と 文 化 1	2		2							
			日 本 の 社 会 と 文 化 2	2			2						
			人 文 科 学 特 殊 講 義	2		2							
		社会科学	日 本 国 憲 法	2			2						
			現 代 の 政 治	2			2						
			心 理 学	2		2							
			社 会 科 学 特 殊 講 義	2			2						
		自然科学	環 境 科 学	2		2							
			生 命 科 学	2		2							
			文 系 の た め の 数 学	2		2							
			文 系 の た め の 統 計 学	2		2							
		学際領域	自 然 科 学 特 殊 講 義	2		2							
			平 和 学	2			2						
			道 徳 と 現 代 倫 理	2			2						
			科 学 技 術 史	2			2						
	日本文化	く ら し と 法	2		2								
		日 本 事 情 1	②	2									
		日 本 事 情 2	②		2								
		人 間 教 育	2			2							
	人間教育	人 権 教 育	2				2						
		英語	英語(Listening & Speaking) 1	1	6以上(留学生は8以上)	2							
			英語(Listening & Speaking) 2	1			2						
			TOEIC上級(Listening) 1	1				2					
	TOEIC上級(Listening) 2		1					2					

23
B
入
学
生

(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分	科 目		単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考		
					1年次		2年次		3年次		4年次				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
総合教育科目	英語	英語(Reading & Writing) 1	1	6以上(留学生は8以上)	20以上	2									(集中)
		英語(Reading & Writing) 2	1				2								
		TOEIC上級(Reading) 1	1					2							
		TOEIC上級(Reading) 2	1						2						
		英 語 総 合 (上 級) 1	1						2						
		英 語 総 合 (上 級) 2	1							2					
		英 語 海 外 研 修	2					2	2						
	初修外国語	初 修 外 国 語 入 門 1	1			2									(集中)
		初 修 外 国 語 入 門 2	1				2								
		初 修 外 国 語 初 級 1	1					2							
		初 修 外 国 語 初 級 2	1						2						
		初 修 外 国 語 総 合 1	1							2					
		初 修 外 国 語 総 合 2	1								2				
		初 修 外 国 語 海 外 研 修	2					2	2						
	日本語	日 本 語 読 解 1	①			2									留学生向け科目
		日 本 語 読 解 2	①				2								留学生向け科目
		日 本 語 作 文 1	①			2									留学生向け科目
		日 本 語 作 文 2	①				2								留学生向け科目
		上 級 日 本 語 読 解 1	①					2							留学生向け科目
		上 級 日 本 語 読 解 2	①						2						留学生向け科目
		上 級 日 本 語 作 文 1	①					2							留学生向け科目
		上 級 日 本 語 作 文 2	①						2						留学生向け科目
	身体科 学科目	ス ポ ー ツ 科 学 実 習	1			2									
		ス ポ ー ツ 科 学	2				2								
	小 計					77	20以上	32	34	16	16	4	4	0	0

注) 総合教育科目の履修要件

- イ 「表現力基礎演習」は留学生については随意選択科目とする。
- ロ 1年次配当の英語についてはプレイスメントテストを実施し、その結果に基づいて習熟度別にクラスを分ける。
ただし、英語の2年次および3年次配当科目については、この限りではない。
- ハ 初修外国語はドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語から構成され、複数の言語を卒業要件単位に算入することも可能とする。ただし、各言語は必ず最初に「入門1」および「入門2」を履修しなければならない。
- ニ 留学生には「日本事情1」「日本事情2」の2科目4単位および「日本語」の8科目8単位を必修とする。
なお、留学生は、言語文化科目として母語を履修することは出来ない。
- ホ 留学生には英語のプレイスメントテストを実施しない。

2 専門教育科目

(各履修コースの○印は必修科目・△印は全員履修科目・▽印は選択必修科目・一印はコースによって履修できない科目)

区分	科 目	単位	履修コース			最低単位数	卒業資格	週 時 間 数								備考
			経営学	会計 士 シ ス テ ム	フ ァ ッ シ ョ ン			1年次		2年次		3年次		4年次		
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専 門 教 育 科 目	専門基礎科目	経 営 学 基 礎 A	2	○	○	○		2								
		経 営 学 基 礎 B	2					2								
		会 計 学 基 礎	2	○	○	○		2								
		簿 記 基 礎	2	▽	○			2								
	ゼミナール科目	コンピュータ・リテラシ	2	△	△	△		2								
		入 門 ゼ ミ ナ ー ル A	2	△	△	△		2								
		入 門 ゼ ミ ナ ー ル B	2	△	△	△			2							
		基礎ゼミナールA	2	△	△	△				2						
		基礎ゼミナールB	2	△	△	△					2					
		専 門 ゼ ミ ナ ー ル	4	△	△	△					2	2				
		研 究 ゼ ミ ナ ー ル	2	△	△	△							2			
	ビジネススキル科目	卒 業 研 究	2											2		
		初 級 簿 記 A	2		○			2								
		初 級 簿 記 B	2		○			2								
		商 業 簿 記 A	2		▽			2								
		商 業 簿 記 B	2		▽			2								
		販 売 管 理 A	4						4							
		販 売 管 理 B	4							4						
		ビジネス・コンピューティング	4				4									
		ビジネス・プロトコル	4				2	2								
		経営関連科目	キャリア講座A	4						2	2					
	キャリア講座B		4								2	2				
	キャリアデザインA		2							2						
	キャリアデザインB		2								2					
	インターンシップ		2									2			◎	
	経 営 管 理 論		2	▽						2						
	経 営 戦 略 論		2	▽						2						
	経 営 組 織 論		2	▽						2						
	マーケティング論		2	▽				2							①	
	経 営 財 務 論		2	▽					2							
	人的資源管理論		2	▽									2			
	経 営 史		2					2								
	生 産 管 理 論		2						2							
	ビジネスコミュニケーション論		2							2						
	マーケティング戦略論		2							2						
	e コ マ ー ス 論		2							2						
	経営関連科目	国 際 経 営 論	2								2					
		事 業 承 継 論	2								2					
		消 費 者 行 動 論	2								2				①	
		経 営 情 報 論	2									2				
		組 織 行 動 論	2									2				
		財 務 管 理 論	2										2			
		商 品 企 画 論	2										2			
		非 営 利 組 織 の 経 営	2										2			

23
B
入
学
生

(各履修コースの○印は必修科目・△印は全員履修科目・▽印は選択必修科目・一印はコースによって履修できない科目)

区分	科 目	単位	履修コース			卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考	
			経営学 専攻コース	会計 専攻コース	ファッション ビジネス 専攻コース		1年次		2年次		3年次		4年次			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門教育科目	経営関連科目	情報処理概論	2				2									
		経営科学 A	2					2								
		経営科学 B	2						2							
		市場調査	2								2					
		アプリケーション演習A	2					2								
		アプリケーション演習B	2					2								
		プログラミング演習	2							2						
	会計・法律関連科目	工業簿記 A	2		▽		2									
		工業簿記 B	2		▽			2								
		会計学総論	2	▽	○				2							
		財務会計論	2		▽					2						
		管理会計論	2		▽					2						
		国際会計論	2		▽							2				
		監査論	2		▽							2				
		コンピュータ会計	2		▽						2					
		財務諸表分析	2		○					2						
		英文簿記	2		▽						2					
		ビジネス法	2						2							
		商取引法	2							2						
		会社法	2								2					
		所得税法	2							2						
		消費税法	2								2					
		法人税法	2									2				
	テーマ別研究科目	地域創造論	2						2							
		地域政策論	2							2						
		経営とデザイン	2							2						
		地域産業論	2								2					
		観光まちづくり論	2								2					
		ファッションビジネス論	2			△			2							(衣)
		特定産業研究 A	2					2								
		特定産業研究 B	2					2								
		特定産業研究 C	2					2								
		特定産業研究 D	2					2								
		経営学特殊講義 A	2					2								
		経営学特殊講義 B	2					2								
		経営学特殊講義 C	2					2								
		経営学特殊講義 D	2					2								

(各履修コースの○印は必修科目・△印は全員履修科目・▽印は選択必修科目・一印はコースによって履修できない科目)

区分	科 目	単位	履修コース			卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
			経営学	会計 スペシャリスト	ファッション ビジネス		1年次		2年次		3年次		4年次																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
専 門 教 育 科 目	テーマ別研究科目	会計学特殊講義 A	2				2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			

注) 専門教育科目の履修要件

- イ 備考欄中の○印は単位認定科目とし、3年次後期(学科指定の期日)までに申し出た者は、学科の判断に基づき、単位認定を受けることができる。(詳細はP47を参照)
- ロ 会計スペシャリストコースの者に限り会計スペシャリストコース特設科目を履修することができる。
- ハ ファッションビジネスコースの者に限り、ファッションビジネスコース特設科目を履修することができる。
- ニ 備考欄中の(衣)は、2級衣料管理士の資格を取得するのに必要な科目である。

Chapter 03

21B 編入生

01	カリキュラムの概要	57
02	卒業要件単位数(外国人留学生も共通)	58
03	履修制限	60
04	履修申請	61
05	ゼミナール科目	62
06	卒業見込証明書	62
07	カリキュラム	63

01 カリキュラムの概要

経営学部経営学科のカリキュラムは、専門教育科目の1つから成ります。

また、科目には卒業要件単位数が決められており、専門教育科目から62単位以上を修得する必要があります。

専門教育科目…62単位以上

専門教育科目はさらに科目分野に分かれており、科目によっては必修とされて、卒業要件単位数が決められています。（詳しくは58ページ❶卒業要件単位数を確認してください。）

02 卒業要件単位数(外国人留学生も共通)

① 卒業要件単位数

専門教育科目	必修科目	4単位	62単位	学士(経営学)
	選択必修科目	4単位		
	選択科目(自由科目12単位を含む。)	54単位		
2年以上在学				

※総合教育科目を履修することはできますが、卒業要件単位へは加算されません。

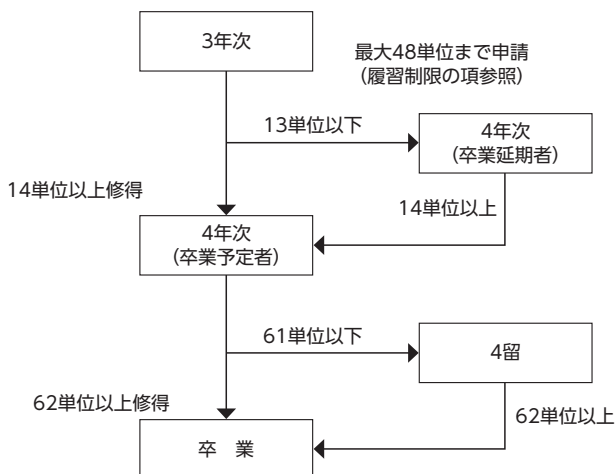
※12単位を超えて履修した自由科目は、卒業要件単位数に加算されません。

② 進級の条件

修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できますが、年間48単位(教職科目等を除く。)を上限とする履修制限がありますので、計画的に修学してください。

原則として進級するには、1年を通じて在学していなければなりません。なお、留学等の理由で休学する場合には、事前に教務課に相談ください。

進級および卒業までの流れ



※卒業延期者においては、前期(半期)科目で卒業要件単位を修得した場合に限り、9月期卒業が可能となります。

3 卒業要件単位の修得要件

1. 必修科目

必修科目は、下記の表に示す2科目の合計4単位です。

区分	科目名	単位数
専門基礎科目	経営学基礎	2
	会計学基礎	2

2. 選択必修科目

選択必修科目は、下記の表に示す通りです。合計4単位以上を修得しなければなりません。

ただし、4単位を超えて修得した単位は、選択科目として卒業要件単位に算入されます。

区分	科目名	単位数	備考
経営関連科目	経営管理論	各2	左記より2科目(4単位)以上を修得してください。
	経営戦略論		
	経営組織論		
	マーケティング論		
	経営財務論		
	人的資源管理論		

3. 選択科目

選択科目は54単位となっています。

なお、選択必修科目の卒業要件単位数4単位を超えて修得した単位数は、選択科目の単位として算入されます。

また、自由科目(※)制度で修得した単位は、12単位を上限として卒業要件単位の選択科目として算入されます。

※自由科目とは

他学部(自分の所属する学部以外)および他学科(自分の所属する学科以外)の専門教育科目を卒業までに30単位まで履修することができます。そのうち12単位までを、専門教育科目の選択科目として、卒業要件単位に算入することができます(これを「自由科目」と称します)。ただし、履修の認められない科目がありますので、注意してください。

自由科目を履修したい人は、Webシラバスをよく読んで選択してください。

自由科目は、Web履修申請画面で確認できる(表示されている)科目から選択してください。

03 履修制限

① 履修制限

21B編入生には以下の制限がありますので、注意して下さい。

21B編入生に適用

1年間に履修できる単位数	最大48単位 ただし、教員免許取得に係わる以下の科目は除きます。 ・「教科及び教科の指導法に関する科目」に規定する科目のうち職業指導および「各教科の指導法(情報機器および教材の活用を含む。)」 ・「教育科目の基礎的理解に関する科目等」および「大学が独自に設定する科目」。ただし、人権教育および生涯学習論の2科目は履修制限に含む※
学年による科目の制限	3年次: 1～3年次配当科目を履修することができます。 4年次: すべての開講科目を履修することができます。
科目履修上の制限	■研究ゼミナール1、2を同時に履修することができます。 ■卒業論文ゼミナールを履修するためには、研究ゼミナール2を修得していなければなりません。 ■研究ゼミナール1、2および卒業論文ゼミナールは、同一教員で履修しなければなりません。
必修科目	「経営学基礎」2単位、「会計学基礎」2単位の合計4単位を必修とします。
選択必修科目	経営関連科目群6科目から4単位以上を修得してください。4単位を超えて修得した単位は、選択科目の単位に入ります。
選択科目	選択科目は、54単位とします。 ①選択必修科目の4単位を超えて修得した単位は、選択科目の卒業要件単位に入ります。 ②自由科目制度により修得した単位は、12単位を上限として、卒業要件単位に組み入れることができます。

※詳しい科目については教職課程ガイドブックを参照してください。

注) 編入生は全員履修科目の「表現力基礎演習」、「入門ゼミナールA・B」は履修することができません。
ファッションビジネスコース特設科目も履修することができません。

成績表に表示される履修制限メッセージ

S2	来年度「卒業論文ゼミナール」を履修することができません
----	-----------------------------

② 未開講科目

カリキュラム表にある科目でも、本年度の時間割に載っていない科目については未開講となります。

04 履修申請

編入生は2年という短い期間で卒業要件単位数を修得することが求められています。時間割作成にあたって、3年次、4年次の計画を次のとおり立てることをお勧めします。

- a. 編入生は、「簿記基礎」「初級簿記A」「コンピュータ・リテラシ」の3科目6単位分が全員履修科目として申請済みになります。
- b. まず3年次は、できるだけ多くの単位履修・取得を目指してください。そうすれば、4年次には講義数が少なくなり、就職活動や卒業論文作成などの時間を確保することができます。なお、1年間で履修可能な単位数は48単位です。
- c. 4年次は、3年次で取得した単位を除いた残りの卒業要件単位数をみtasことに重点をおき履修してください。その際、4年次卒業を確かなものにするために、4年前期で卒業要件単位数をできるだけ履修・取得しておくことがのぞましいです。また、卒業要件単位数にプラスして複数の科目を履修するとよいでしょう。

▶ ゼミナールの履修

- ・経営学科では、ゼミナールという科目(選択科目)を設けています。
- ・ゼミナールは各自が関心を持ち、より深く研究したいと思う専門分野について、指導教員やゼミ仲間とともに研究する科目です。少人数で構成されるため、講義科目に比べて発展的な研究を行ったり、親密な人間関係が形成できたりと、大学生活において有意義な科目のひとつです。
- ・編入生は、3年次より2年間、同一教員のゼミナールに所属することになります。
- ・ゼミナールの所属決定は、各自の志望理由等を考慮した上で、担当教員が行います。ゼミナールを志望する学生は、所定の方法・期限を守り申込みを行ってください。
- ・なお、経営学科のゼミナールは2年次より開講されています。編入生でゼミナール所属が決定した者は、指導教員が認めた場合に3年次のゼミナール(研究ゼミナール2)と2年次のゼミナール(研究ゼミナール1)を同時に履修することができます。

▶ 専門教育科目の履修

- ・経営関連科目において、選択必修として特定の科目のうちから4単位を修得しなければなりません。それ以外の専門教育科目については、特に選択必修の制限はありません。
- ・興味のある分野から重点的に履修しても、多くの分野から科目を幅広く選択してもかまいませんが、卒業するためには卒業要件単位数をみtasことが必要です。

05 ゼミナール科目

ゼミナールの所属決定は、各自の志望理由や成績等を考慮した上で、担当教員が行います。なお、編入生でゼミナール所属が決定した者は、指導教員が認めた場合に3年次のゼミナール(研究ゼミナール2)と2年次のゼミナール(研究ゼミナール1)を同時に履修することができます。

科目名	配当年次	必／選
研究ゼミナール1	2年次	選択
研究ゼミナール2	3年次	選択
卒業論文ゼミナール	4年次	選択

06 卒業見込証明書

「卒業見込証明書」は、3年次修了時点で既に卒業要件単位を14単位以上修得し、4年次において履修申請した科目を全部または一部修得すれば卒業できる者に対して発行します(4月1日以降発行)。

※卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、パピルスメイト(証明書自動発行機・設置場所はP9を参照)を利用してください。

07 カリキュラム

専門教育科目

(○で囲んだ単位は必修科目・－印は履修できない科目)

区分	科 目	単位	最低単位数 卒業資格	週 時 間 数								備 考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専 門 教 育 科 目	専門基礎科目	経 営 学 基 礎 ②	②	4	2							全員履修		
		会 計 学 基 礎 ②	②		2								全員履修	
		簿 記 基 礎	2		2									
		コ ン プ ュ ー タ ・ リ テ ラ シ	2		2									
	ゼミナール科目	入 門 ゼ ミ ナ ー ル A	－	必修4・ 選択必修4・ 選択54 合計62	－									全員履修
		入 門 ゼ ミ ナ ー ル B	－		－									
		研 究 ゼ ミ ナ ー ル 1	4				2	2						
		研 究 ゼ ミ ナ ー ル 2	4					2	2					
		卒 業 論 文 ゼ ミ ナ ー ル	4							2	2			
	ビジネススキル科目	初 級 簿 記 A	2		2									
		初 級 簿 記 B	2			2								
		商 業 簿 記 A	2		2									
		商 業 簿 記 B	2			2								
		販 売 管 理 A	4				4							
		販 売 管 理 B	4				4							
		ビジネス・コンピューティング	4	4										
		ビ ジ ネ ス ・ プ ロ ト コ ル	4	2	2									
	キャリアスキル科目	キ ャ リ ア 講 座 A	2			2	2							
		キ ャ リ ア 講 座 B	2					2	2					
		キャリアデザインA	2				2							
		キャリアデザインB	2					2						
		イ ン タ ー ン シ ッ プ	2					2				◎		
	経営関連科目	経 営 管 理 論	2	4以上			2							
		経 営 戦 略 論	2				2							
		経 営 組 織 論	2				2							
		マ ー ケ テ ィ ン グ 論	2			2								
		経 営 財 務 論	2				2							
		人 的 資 源 管 理 論	2						2					
		組 織 行 動 論	2						2					

(○で囲んだ単位は必修科目・－印は履修できない科目)

区分	科 目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考	
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専 門 教 育 科 目	経営関連科目	非 営 利 組 織 の 経 営	2	（必修4・ 選択必修4・ 選択54 合計62）						2			
	消 費 者 行 動 論	2					2						
	商 品 企 画 論	2							2				
	マーケティング戦略論	2				2							
	e コ マ ー ス 論	2						2					
	経 営 情 報 論	2						2					
	財 務 管 理 論	2							2				
	国 際 経 営 論	2					2						
	情 報 処 理 概 論	2	2										
	経 営 科 学	2				2							
	ビ ジ ネ ス 統 計	2					2						
	デ ー タ 分 析	2						2					
	市 場 調 査	2							2				
	アプリケーション演習A	2			2								
	アプリケーション演習B	2			2								
	プログラミング演習	2					2						
	会計・法律関係科目	工 業 簿 記 A	2		2								
		工 業 簿 記 B	2			2							
		会 計 学 総 論	2				2						
		財 務 会 計 論	2				2						
		管 理 会 計 論	2						2				
		国 際 会 計 論	2					2					
		監 査 論	2						2				
		コ ン プ ュ ー タ 会 計	2							2			
		民 法	2				2						
		商 法	2					2					
		会 社 法	2						2				
		所 得 税 法	2					2					
消 費 税 法		2						2					
法 人 税 法		2							2				

(必修4・選択必修4・選択54 合計62)

(○で囲んだ単位は必修科目・一印は履修できない科目)

区分	科 目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目 テーマ別研究科目	地 域 産 業 論	2	(必修4・選択必修4・選択54 合計62)					2				
	ファッションビジネス論	2			2							
	特 定 産 業 研 究 A	2		2								
	特 定 産 業 研 究 B	2		2								
	特 定 産 業 研 究 C	2		2								
	特 定 産 業 研 究 D	2		2								
	経 営 学 特 殊 講 義 A	2		2								
	経 営 学 特 殊 講 義 B	2		2								
	経 営 学 特 殊 講 義 C	2		2								
	経 営 学 特 殊 講 義 D	2		2								
	会 計 学 特 殊 講 義 A	2		2								
	会 計 学 特 殊 講 義 B	2		2								
	会 計 学 特 殊 講 義 C	2		2								
	会 計 学 特 殊 講 義 D	2		2								
	旅 行 企 画 演 習 A	2				2						
	旅 行 企 画 演 習 B	2					2					
	ま ち お こ し と 観 光	2						2				
	国 内 旅 行 実 務 A	2				2						
	国 内 旅 行 実 務 B	2					2					
合 計			62									

注) 専門教育科目の履修要件

備考欄中の○印は単位認定科目とし、3年次後期の申請期間内に申し出た者は、学科の判断に基づき、単位認定を受けることができる。

※週時間数の数字は、2=週1コマ、4=週2コマの授業があることを示します。

1年次には、1年次の、2年次は1、2年次の、3年次は1、2、3年次の、4年次は1、2、3、4年次の欄に数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。

